

事項一四 「メキシコ」革命動乱関係一件

五八七 一月二十七日 在墨国太田臨時代理公使ヨリ

本野外務大臣宛

在本邦ロメロ公使召喚説ヲ外務次官否定ノ件

公第三八号

(三月七日接受)

大正六年一月二十七日

在墨

臨時代理公使 太田 為吉(印)

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

駐日「ロメロ」公使帰国云々ニ関スル件

本件ニ関シテハ拙電第三号及本月十九日附公第二八号所報ノ次第モ有之候処本月二十六日当国仮首都「ケレタロ」市ヨリ帰墨セル外務次官「シエール」氏ニ面会シタルヲ以テ其序ヲ以テ右新聞記事ノ真偽ヲ問ヒ合セタルニ同氏ハ右拙信ニ記載セシ「エル、デモクラタ」新聞所報ニ似テ政府ヨリ「ロメロ」公使召喚ノ電報ヲ発セシコトヲ聞カス且ツ同氏ノ考ヘニテハ恐ラク其ノ事ナカラント思惟スル旨竝ニ同公使ハ或ハ其内兼任国タル支那ヘ国書捧呈旁一時出張スル

五八九 一月三十日

在墨国太田臨時代理公使ヨリ
本野外務大臣宛

墨国新憲法ノ実施大統領ノ選挙及就任国会開

会期等ニ関スル臨時法案ヲ憲法議会議決ノ件

公第四三号

(三月十四日接受)

大正六年一月三十日

在墨臨時代理公使 太田 為吉(印)

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

墨国新憲法ノ実施期、大統領ノ選挙期、就職期及

国会開会期其他ニ関スル憲法議會ノ議定報告ノ件

客年十二月一日当国「ケレタロ」州首府「ケレタロ」市ニ開会セラレ明三十一日ヲ以テ其議事ヲ終ラントスル憲法議會ハ本日、共和国大統領ノ選挙、就職期及国会開会期其他ニ関スル臨時法案ヲ左記ノ通り議決致候、右ハ亦当国現政府機関組織ノ一端ヲ窺知セシムルモノト被思量候ニ付抄訳ノ上供貴覽候

記

『第一条 新憲法ハ直ニ之ヲ公表シ全共和国ヲ通シテ之ヲ

遵奉シ又遵奉セシムル事ヲ最モ厳肅ニ宣誓セシム

ヘシ、

一四 「メキシコ」革命動乱関係一件 五八九

コトアルベシト附言セラレ候
右及御報告候 敬具

五八八 一月二十九日 在米国佐藤大使ヨリ

本野外務大臣宛(電報)

米国政府在墨国出征軍司令官ニ対シ撤兵命令

ヲ下シタル旨公表ノ件

第二九号

二十八日陸軍大臣ハ在墨出征軍司令官 Peshing 少将ニ対シ撤兵ノ命ヲ下シタルコト及其既ニ開始セラレタルベキコトヲ公表セリ撤兵ハ一週間内ニ終了スヘシト伝ヘラル米兵撤兵後北墨ノ秩序維持ハ事實政府ノ手ニ移リ「ラブレゴーン」其任ニ当ルヘシ Villa 〆 Zapata ト手ヲ握リ再ヒ勢力ヲ得ツツアリトノ新聞報アリ尚客年往電第一九六号所報米墨會議々定書ハ「カランザ」ノ不承認ニ因リ不成立ニ了リ

在墨公使ヘ転電セリ

新憲法ハ千九百十七年五月一日ヨリ之ヲ実施ス、但シ共和国最高官部及各州最高官部ノ選挙ニ関スル規定ハ直ニ之ヲ施行ス、』

註、憲法第四十九条ハ墨西哥共和国最高官部ヲ立法部、行政部及司法部ニ分チ又同第一百五條ハ各州政府ハ共和国政府ヲ採用スヘシト規定ス、

『国会ノ開会及来ルベキ選挙ニ於テ共和国大統領ニ選挙セラレタル者ノ就職宣誓ハ同ジク千九百十七年五月一日之ヲ行フ。』

註、憲法第八十七条ハ共和国大統領ハ其職ニ就クニ当リ、国会ニ出席シ、憲法ヲ遵奉シ又之ヲ遵奉セシムルコトヲ宣誓スト規定ス、

『本法第二条ニ依リ執行サルベキ選挙ニ関シ新憲法第八十二条第五項ノ規定ハ今回ニ限り之ヲ適用セズ、』

註、憲法第八十二条第五項ハ共和国大統領タリ得ル者ノ資格ノ一ツヲ規定シ、軍隊ニ属スル者ハ選挙日ヨリ九十日以前ニ現役ヲ脱スルニ

アラザレバ被選舉人タルヲ得ズトナス、

『今回ニ限り現役軍人ト雖モ、下院議員又ハ上院議員ニ選舉セラルルコトヲ得ベシ、但シ其選舉区ニ於テ軍司令權ヲ有スル者ハ此ノ限りニアラス』

註、憲法第五十五條第四項ハ現役軍人ノ下院議員ニ選舉セラルル事ヲ禁ズ、但シ選舉執行ノ日ヨリ九十日前ニ現役ヲ脱シタル者ハ此ノ限りアラズト規定ス、

此ノ点ニ関シテハ憲法議會ニ於テ激烈ナル議論生ジタリシモ、結局革命ニ直接關係ヲ有セル軍人ノ特別ナル事情ニ鑑ミ、今回ニ限り斯クノ如ク例外ノ議決ヲ為シタルモノト思ハル
『第二條、共和国執政（憲政軍長官）ハ新憲法ノ公表後直ニ共和国最高官部ノ總選舉ヲ行ハシムベシ、但シ總選舉ハ国会ガ其開會後、大統領選舉ニ關スル投票ヲ審查シテ當選者ヲ公表シ且ツ新大統領ヲシテ前條規定ノ宣誓ヲ為サシムルコトヲ得ルタメ、充分ナル時日ヲ見計テ之ヲ執行スベシ、』

註、是レ本法第六條ニ規定スルガ如ク国会ハ本

テ偶數ノ番号ニ當リタル者ハ、今回ニ限り二ヶ年間職ニ在ルモノトス、』

註、憲法第五十八條ノ規定スル上院議員ノ任期及其半数改選期ハ前見ノ通りナリ、

『第五條、來ル六月一日ニ於テ、大審院ヲ成立セシムル為メ、国会ハ來ル五月中ニ同院判事ヲ選舉スベシ、今回ノ選舉ニ限り憲法第九十六條ノ規定スル各州立法部ノ推薦ニ係ル大審院判事候補者ニ關スル規定ハ之ヲ適用セズ、又其任期ハ今回ニ限り憲法第九十四條ノ但書ノ期間即チ二ヶ年トス、』

註、憲法第九十六條ハ大審院判事選舉ニ際シテハ兩院議員全部ノ三分ノ二以上ノ出席ヲ要シ秘密投票ヲ行ヒ、絶對多數ヲ得タル者ヲ以テ之ニ任ズルモノナリト定ム、又候補者ハ別ニ地方方法ノ定ムル所ニ從ヒ、各州立法部ヨリ一人宛之ヲ推薦スルモノナリト規定ス、

又同第九十四條ハ大審院判事ハ十一人ヨリ成リ在任期間ヲ四ヶ年トス但シ今回ニ限り之ヲ二ヶ年トナスト規定ス、

年四月十五日迄ニ之ヲ召集シ、大統領ハ国会ノ開會ト共ニ同五月一日ニ就職スト（前見第一条第二項）憲法議會ニ於テ議決セル所以ナリトス、

『第三條、今回選舉セラルル下院議員及上院議員ノ任期ハ千九百十六年九月一日ニ溯リ之ヲ起算ス、又大統領ノ任期ハ同年十二月一日ニ溯リ之ヲ起算ス、』

註、憲法第五十一條ハ下院議員ノ任期ヲ二ヶ年トナシ任期ノ終ニ於テ其全部ヲ改選スルモノナリト規定ス、又同第五十八條ハ上院議員ノ任期ヲ四ヶ年トシ、二ヶ年毎ニ其半数ヲ改選スト規定ス、尚又同第六十五條ハ国会ノ通常會議ハ毎年九月一日ヲ以テ之ヲ開始スト定ム憲法第八十三條ハ大統領ハ十二月一日ヲ以テ其職ニ就キ四年間在職シ、其後ハ再び大統領ニ選舉セラルルコトヲ得ザルモノナリト規定ス、

『第四條、將來、憲法ノ規定ニ抛リ二年毎ニ上院議員ノ半数ヲ改選シ得ル為メ、今回當選スル上院議員ニシ

『第六條、国会ハ遅クトモ千九百十七年四月十五日迄ニ之ヲ召集シ、非常予備會議ヲ開始シ、共和国大統領選舉ノ結果ヲ審查シ當選者ノ發表ヲ為ス、』

註、憲法第六十五條ハ国会ハ毎年九月一日ニ通常會議ヲ開始ス（前見）ト規定シ同第六十六條ハ其後必要ナル期間之ヲ繼續ス但シ如何ナル場合ニ於テモ其年ノ十二月三十一日ヲ超ユルコトヲ得ズト規定ス、尚同第六十七條ハ大統領ガ必要ト認ムル場合ニハ何時ニテモ非常會議ヲ開クコトヲ得トアリ、

『第七條、今回ノ上院議員選舉ノ投票審查ニハ各州又ハ連邦区ニ於テ下院議員選舉投票審查ノ目的ヲ以テ組織セラレタル第一選舉区審査委員會之ニ任ズ、又該審査委員會ハ當選上院議員ニ對シ當選証明書ヲ交付スベシ。』

註、通常選舉ニ於テハ投票審查其他之ニ關スル規定ハ別ニ選舉法ノ定ムル所ニ抛ル。

『第八條、大審院判事ハ、現行法ノ定ムル所ニ從ヒ、同院成立後、直チニ未決ノ假、懸案トナリ居ル上告事

件ニ執筆シ、判決スベシ、』

註、内乱其他之ニ関連セル事情ノ為ノ是迄大審院ノ存在ナグ多数未決事件ノ堆積セルアリテ關係者ノ迷惑一方ナラザルモノアリトハ、憲法議會ニ於テ論セラレタル所ナリ、

『第九条、今回ノ総選挙ニ必要ナル選挙法發布ノ権能ヲ今回ニ限り憲政軍長官兼共和国執政ニ附与ス、』

註、憲法第八十一条ハ大統領ノ選挙ハ直接選挙ニシテ別ニ選挙法ノ定ムル所ニ拠ルトアリ、又同第五十二条ニハ人口毎六万又ハ其端数ニ対シ、一人ノ本任議員ト同数ノ補欠予備議員ノ選出ヲ認ム又同第五十六条及第五十七条ハ各州及連邦区ニ対シ、二人宛ノ本任上院議員ト同数ノ補欠予備上院議員ノ選出ヲ認メ之ヲ規定ス、何レモ直接選挙ニシテ別ニ選挙法ノ定ムル所ニ拠ルトアリ、

以上ノ外本臨時法ハ尚七ヶ条ヲ残スト雖モ此等ノ個条ハ墨国軍人ニシテ、現政府ノ反对党ニ属シタル者ノ問責又ハ処分、文部省ト司法省ヲ廃止スル規定、及来九月一日ニ開始

シテハ客月三十日附公第四三号拙信ヲ以テ大体及報告置候処「カランサ」長官ハ右報告中ニ見ユル臨時附加法第二条ノ規定ニ遵ヒ昨六日附ヲ以テ左記ノ通り大統領及兩院議員選挙執行令ヲ發布致候、右ハ選挙執行期日及關係事情ヲ具體的ニ知ラシムルモノナルニ付キ抄訳ノ上供覧候

記

大統領及兩院議員選挙執行令

憲政軍長官兼共和国執政タル余「ヴェヌステイアノ、カランサ」ハ客月二十日ヲ以テ憲法議會ニ於テ決議セラレタル臨時追加法第二条ノ規定ニ拠リ左記各条ヲ墨西哥共和国國民ニ令ス、

第一条、来ル三月第二ノ日曜日（十一日）ヲ以テ共和国大

統領、下院議員及上院議員ノ選挙日ト定ム、

共和国行政部、及立法部ハ該臨時追加法第一条ノ規定ニ遵ヒ、来ル五月一日ヲ以テ嚴肅ニ成立セラルルモノトス、

第二条、前条ノ規定スル選挙ハ本日施行セラレタル選挙法

ノ規定ニ遵ヒ、之ヲ執行スルモノトス、

註、臨時追加法第九条ハ共和国執政ニ選挙法發布

セラルル国会ノ通常會議ニ関スル予備規定等ニ関スルモノニシテ本件報告トハ何等直接關係無キヲ以テ茲ニ之ヲ略ス右不取敢及報告候 敬具

五九〇 二月七日 本野外務大臣ヨリ 在墨国太田臨時代理公使宛（電報）

カランサ政府承認ニ関スル同將軍ノ感謝親書ニ対スル各国ノ挨拶振其後ノ狀況取調方訓令ノ件

第三号

客年貴電第四八号ニ関シ其後ノ成行今一応取調電報アリタシ

五九一 二月七日 在墨国太田臨時代理公使ヨリ 本野外務大臣宛

墨西哥大統領及兩院議員選挙執行令發布ニ関スル件

公第四六号 （三月十四日接受）

大正六年二月七日

在墨臨時代理公使 太田 為吉（印）

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

墨西哥共和国大統領及同国兩院議員選挙竝ニ就任期等ニ関

ノ権能ヲ附与ス（一月三十日附公第四三号参照）

第三条、新上院議員及下院議員ノ第一準備會議ハ来ル四月

二日午前十時ヲ以テ之ヲ開始シ、尚同日ヨリ向フ十二日間ニ於テ各議員ノ当選証書ノ相互審査ヲ遂ゲ、又同月中残余ノ期日ヲ以テ大統領選挙ノ投票ヲ審査シ且当選者ノ公表ヲ為スベシ、

第四条、新ニ選挙セラレタル共和国大統領、下院議員及上

院議員ハ其職務費トシテ（将来国会ガ職務費ニ付キ何等ノ変更ヲ議決セザル間ハ）千九百十二年乃至十三年度ノ予算法ニ定ムル給料ヲ受ク、

右ハ之ヲ官報ニ掲載シ且其正当ノ執行ヲ期スヘシ、

千九百十七年二月六日

「ケレタロ」市共和国政府ニ於テ、

憲政軍長官兼共和国執政

「ヴェヌステイアノ、カランサ」

内務大臣、代理次官

「アギレ、ペルランガ」

以上

尚憲法議會ニ於テ議決セラレタル臨時附加法第九条（前見

註参照)ニ抛リ憲政軍長官兼共和国執政ノ發布セル選挙法ハ本令ト共ニ昨六日附ヲ以テ実施セラレタレトモ、其内容タル旧選挙法ト大差ナキヲ以テ玆ニ之ヲ略ス、右及報告候 敬具

五九二 二月十二日 在墨国太田臨時代理公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

カランサ將軍ノ親書ニ対スル各国ノ挨拶振取
調ノ結果電報ノ件

第七号

貴電第三号ニ関シ取調ヘタル処ニ依レバ未タ何国ヨリモ挨拶書来リ居ラズ而シテ先般外務省官房長ガ内示セシ本件親書ヲ見ルニ右ハ当国現政府承認ニ対スル謝意ヲ表彰セルモノニシテ格別挨拶ヲ要スベキモノトモ考ヘラレズ且右官房長ノ答詞ノ口吻ニ依レバ先方ニ於テモ之ヲ期待シ居ラザル様子ナリキ

五九三 二月二十日 在墨国太田臨時代理公使ヨリ
本野外務大臣宛

在墨米国大使来任及在米墨国大使任命ノ件
公第五四号 (三月三十日接受)

致シ候

而シテ墨国政府ニ於テハ本年一月初旬「アレドンド」氏ヲ召喚シ從來桑港ニ駐在セシ「デネグリー」総領事ヲシテ在華府大使館ノ事務ヲ取扱ハシメタル俟ト相成居候処今般前記米墨會議ニ於ケル墨国側委員ノ一タリシ「ボニアス」(Ignacio Bonillas, 通信次官ニシテ大臣代理タリシ人)氏ヲ駐米大使ニ任命シ既ニ米国政府ノ同意ヲ得タル由ナルヲ以テ其内赴任スルコトト被存候元来同氏ハ「ソノラ」州ノ産ニシテ米国「ボストン」大学ニ機械工学ヲ修メ技術家出身ナルカ故ニ外交官トシテハ聊カ不適任ナルカ如キ觀ナキニシモアラザレド温厚篤実ノ資性ヲ有シ陸軍大臣「オブレゴン」將軍ト同地方出身ニシテ之ト親密ノ關係ヲ有スルノミナラズ其人格及為人又大ニ「カランサ」氏ノ信用ヲ博シ氏ノ系統ヨリセバ寧ロ反对ノ党人ト見做サル人物スラ之ヲ賞揚シ居ル事情(客年九月十一日附機密公第二五号)モアリ其上一家族拳テ英語ヲ能クスルカ故ニ政治上ノ地盤ハ格別注目スベキモノナキモ現政府部内人望家ノ随一ナルヲ以テ客年十月頃米墨會議墨国首席委員「カブレラ」氏カ駐米大使ニ任セラルベシトノ風説アリシ際当国社会ノ之ニ対

大正六年二月二十日

在墨

臨時代理公使 太田 為吉(印)

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

墨国駐劄米国大使「フレッツチャー」来任並ニ駐米墨国大使「ボニアス」任命ニ関シ報告ノ件

米国政府ハ曩ニ其駐墨大使「ヘンリー、レーン、ウキルソン」ヲ罷メ次デ「オシヨーネシー」代理大使ヲモ召還シタル以来正式ノ外交官ヲ当国ニ派遣セズ特使トシテ「リンド」及「ロジャース」ヲ派シ今ヨリ一年以前當時智利国ニ駐劄セシ「フレッツチャー」大使(Henry P. Fletcher, 確カ「タフト」大統領時代ニ公使ニ任ゼラレ其後民主党政政府ト成リ在A・B・C、三国公使館ヲ大使館ニ昇格セシ際大使ニ任セラレタリト記憶ス)ヲ駐墨大使ニ任命シタルモ容易ニ之ヲ赴任セシメズ又駐米墨国大使「アレドンド」氏ニ対シテモ正式大使ノ待遇ヲ与ヘ居ラザリシ処先般閉会シタル米墨會議カ殆ント何等懸案ヲ解決スルニ至ラザリシ結果更ニ之カ商議ヲ外交機關ニ委スルコトト決シタルモノノ如ク今回愈「フレッツチャー」氏ニ赴任ヲ命シ氏ハ去ル十七日当地ニ着

スル氣受ハ甚ダ良好ナラズ且米国ニ於テモ随分物議アルタルニ比スルモ今回「ボニアス」ノ任命ハ頗ル一般ノ好感ヲ刺激シタル傾向有之候
終ニ「フレッツチャー」大使ハ目下「カランサ」氏ノ滞留セル「ケレタロ」市ニ於テ親任狀ヲ捧呈セズ同氏カ当首府ニ歸リ来ルヲ俟チ当地ニ於テ之ヲ為スモノノ如ク其時日ノ如キハ未ダ一向定マリ居ラサル様子ニ見受ケラレ候右及報告候 敬具

追テ駐米大使トシテ「カブレラ」任命風説一件ニ付テハ御参考ノ為ノ乍序別紙「ホプキンス」来信写ヲ供貴覽候「ホプキンス」ハ其後同趣旨ノ説ヲ載セタル新聞切抜各種送り来リタルカ皆華府発電記事ナルヲ以テ或ハ彼レカ「カブレラ」ヲ嫌惡シ居ル結果何等カ画策セシモノニアラサルカト推察スベキ廉アルモ「カブレラ」ノ為人ハ幾分此レニテモ推測スルヲ得而シテ「カブレラ」ハ当国大蔵大臣トシテ現在政治上相当ノ勢力ヲ有スルコト及ビ寧ロ排日派ニ属スル点ヨリ其ノ将来ハ聊カ注意ヲ要スル人物ト被存候此段申添候也
本信写送附先 在米大使

註 別紙省略

五九四 二月二十日 在墨国太田臨時代理公使ヨリ
本野外務大臣宛

在本邦ロメロ公使帰国説無根ノ件

公第五五号 (三月三十日接受)

大正六年二月二十日

在墨臨時代理公使 太田 為吉 (印)

外務大臣法学博士子爵 本野 一郎殿

駐日墨国公使「ロメロ」氏帰国云々ノ新聞記事ニ関スル拙電第一号カ其後ノ新聞記事及外務次官ノ言明ト異リ居ル次第ハ客月十九日附公第二八号及同二十七日附公第三八号ヲ以テ一応及報告置候処当国外務大臣ハ一兩日前帰都セラレタルニヨリ面会ノ節右ノ実否相尋ネ候処今日迄帰朝ノ命令ヲ発シタルコトナキ旨語り居ラレ候間右御承知相成度此段為念及稟報候 敬具

五九五 二月二十八日 在墨国太田臨時代理公使ヨリ
本野外務大臣宛

米墨會議ニ関スル墨国政府機關紙ノ記事摘記

報告ノ件

公第六三号 (四月九日接受)

大正六年二月二十八日

在墨臨時代理公使 太田 為吉 (印)

外務大臣法学博士子爵 本野 一郎殿

米墨會議墨国委員附書記官ノ同會議ニ関スル宣

言報告ノ件

撤兵ニ関スル米墨委員會議開催ノ件ニ付テハ客年八月三十日附機密公第二二号ヲ以テ及報告置候処其後同會議ハ米国新倫敦「アトランティック、シティー」及「フィラデルフィヤ」市等ニ於テ転々開催セラレタルモ当国政府ハ初メヨリ會議ノ内容ニ付テ固ク秘密ヲ守リテ何等發表スル所ナカリシ為メ世上徒ニ揣摩臆測ヲ逞フシ其帰スル所ヲ知ラザル情態ナリシガ今般同會議ニ參列セシ墨国委員附書記官ニシテ当国外務省顧問弁護士タル「ホワン、ペ、ロホ」氏ハ米国ヨリ帰来シ二月十九日政府機關新聞「エル、ポエブロ」紙上ニ該會議ニ関スル左記ノ事情ヲ發表致候右ハ時節柄頗ル世人ノ注意ヲ惹キタル所ナルノミナラズ他方該會議ノ内容ヲ窺知セシムルモノト被思料候間其要旨摘記ノ上供高覽候米墨會議ノ顛末ニ関シテハ何レ外務省ヨリ是ニ関スル記

録ノ公表セラルルモノアルベケレバ世人ハ此等ノ文書ニ拠リ「コロンバス」事件ニ関シ又米国軍隊ガ墨国領土ニ闖入シ最近撤退スルニ至リタル迄ノ事情等ヲ詳知スルヲ得ベキヲ以テ今ハ茲ニ之ヲ省略スベキモ千九百十六年十一月二十一日ニ至リ両国委員ハ遂ニ米国軍隊ノ撤退ト国境保護ノ件ニ関シ議定スル所アリシハ茲ニ一言スルノ要アリト信ス而シテ墨国委員ハ此ノ議定ヲ以テ充分満足ト做スヲ得サル旨ヲ米国委員ニ予告シ又憲政軍長官ニ於テモ之ヲ容認セラルルヤ否ヤ測リ難キモ、兎ニ角米国政府讓歩ノ終点トシテ同長官ノ考量ニ置ク事ヲ一決シ委員ノ一人「パニ」氏ハ同議定書ヲ携ヘテ「ケレタロ」市ニ帰来シタリ

然ルニ其留守中米国委員長「レーン」氏ハ米国新聞紙ヲ通シテ米国ハ今後墨国内ニ起リ又ハ墨国領土内ニ向ハントスル匪賊ノ現出ニ際シテハ米国民保護ノ為メ必要ニ応シ同国領土内迄之ヲ追撃スルノ權利ヲ依然留保ス尚此ノ行動ハ国際法ガ合衆国ニ命ズル義務ニシテ墨国憲政軍政府ニ於テモ米国ノ斯ノ行動ヲ以テ墨国ニ対スル敵對行為ト做スペカラザルナリ云々ト声明セリ而シテ縱令此ノ声

政府ノ主張スル權利ヲ承認スル意味ヲ記入スル事トシ且米國委員ハ本會議ノ最終ノ妥協ニ達スル為メ米國軍全部撤退ノ期ヲ俟ツ旨ヲ提議セリ然レトモ我委員ハ依然憲政軍長官ノ訓令ニ遵ヒ米國軍隊ガ墨國ノ意思ニ反シテ墨國領土内ニ在ル間ハ兩國ノ間ニ平和及修交アルベキ筈ナク又同軍隊ノ駐屯ハ匪賊ヲ追撃スルヲ目的トスレトモ其實際ノ状態ヨリ推ス時ハ唯徒ニ米墨兩國軍間ニ葛藤ノ原因ヲ惹起スルモノナレバ一時モ早ク墨國ヲ撤退セシムルノ要アリト主張シ頑トシテ其主張ヲ枉ゲザリシカバ米國政府及國民ハ墨國委員ノ愛國的主張ヲ諒トシ「ウィルソン」大統領ニ於テモ其主張ノ正当ナルヲ認メ遂ニ協定、議定書、又ハ其他何等ノ文書ヲ用ユル事ナク全然無条件ニテ撤兵ヲ為スコトニ決シ今ヤ其ノ実行ヲ見ルニ至リタル次第ナリ

是レ要スルニ憲政軍長官ヲ始メ墨國委員諸士ノ愛國心ガ一ツニ墨國ヲシテ斯ノ勝利ヲ獲セシメタルモノト云フベキナリ

尚序ナガラ一言センガ世上米墨會議ニ於テ墨國ニ於ケル鉦業及之ニ対スル投資其他我國ノ財政ニ關スル問題ヲ討

ノ上本年度ニ於テ相当ノ減稅ヲ為スベキ事ヲ約セラレタル事アリタリ

尚右ノ外墨國ニ關係アル米國人及其他外國人ハ本會議ヲ機トシ米國委員ニ向ツテ革命動乱ニ因ル損害賠償ノ要求ヲ為シタル者多々コレアリシモ會議ノ目的ハ此ノ種ノ事件ニ執掌スルモノニアラザルヲ以テ米國委員ハ全然之ヲ却下セリ

又同會議ニ於テ墨國借款條件ヲ討議シタルヤノ風説アルモ是亦前頭ノ誤報ト同シク委員長ガ大藏大臣ナルガ為メ起リタル誤聞ニ過キザルベキガ此ノ点ニ關シテハ米國諸新聞モ墨國委員ヲ以テ直ニ借款締結ノ為メニ來米セルモノト早合点シ頻リニ此ノ一事ニ關シ記載セル所アリタリ殊ニ紐育「タイムズ」新聞ノ如キハ墨國ノ難局ヲ医スル最良ノ方法トシテハ同國ニ借款ヲ許スニアリト論ジタルヲ以テ「カブレラ」委員長ハ憤然トシテ之ニ答ヘテ「本員ハ國家ノ威信ニ關スル問題ヲ議スル為メニ來米セル者ニシテ借金ヲ為サンガタメニアラズ」トノ手強キ取消ノ書翰ヲ同新聞ニ送ラレタルコトアリシガ如シ

斯クノ如ク墨國委員ノ目的トスル所ハ撤兵及國境警備ニ

議セルガ如ク報道セル者アリタリト雖モ右ハ全然無根ノ報道ニテ會議ノ目的ガ米兵撤退ト國境保護ノ件ニアルニ徴シテモ明白ナル所ナルガ若シ偶々此等ノ件ニ付會談セルモノアリトスレハ其ハ新倫敦ニ於テ會議ノ開催セラレタル當時我委員ハ米國官民ヲシテ憲政軍政府ノ一般の行政方針ヲ知ラシムルノ必要アリト認メタルヲ以テ米國委員ニ向ツテ我政府ノ銀行、鉦業、鐵道、外國人ノ權利、司法行政ノ刷新、其他一般行政ニ關スル方針ヲ談話セル事アリ而シテ斯ハ新聞紙ニモ記載セシメ米國官民ノ間ニ好評ヲ博シタル事アルモ此ノ外ニ於テハ墨國委員ハ凡テ憲政軍長官ノ訓令ニ基キ會議ノ目的以外ニ其行動ヲ逸セシメタルコトナシ

斯クテ會議ハ氣節ノ關係上新倫敦ヨリ「アトランティック、シテイ」ニ移リ同市ニ於テ開會中墨國委員長ハ大藏大臣「ルイス、カブレラ」氏ナルガ為メ墨國鉦業ニ投資セル米國資本家ノ一団ハ此ノ機會ニ乗ジ「カブレラ」氏ニ向ツテ鉦業稅ノ減少ヲ嘆願シ來リタルヲ以テ「カブレラ」氏ハ大藏大臣ノ資格ニテ該業關係者ノ一団ヲ「フィラデルフィヤ」市ニ會シ本國ヨリ大藏次官ヲ呼び其立會

關スル二点ニアリシガ米國委員ハ此ノ機會ニ於テ墨國ニ於ケル外國人ノ生命、財産、及革命動乱ニ因ル損害ノ賠償要求委員會ノ設立等ニ關スル事項ヲモ討議シ度キ模様ナリシモ遂ニ果サズシテ兩國委員ハ其任務ヲ解カレ兩國一切ノ懸案ハ外交手段ニ依ル事トナリ兩國間ニ大使ヲ交換シ問題ハ今後此ノ機關ニヨリ解決セラルル事トナリタリ終ニ臨ミ一言センニ米國軍隊ハ今ヤ既ニ撤退シ大使「フレッチャー」氏ハ早く既ニ吾人ノ間ニ在リ斯クノ如ク兩國間ノ外交關係復旧セル結果トシテ墨西哥ニ對スル信用ハ合衆國ニ於テ一層増進セラレ之ニ投資セント企ツル資本家頗ル多ク彼等ハ立憲政府ノ設立ヲ遲シト待チ居ル状態ナリ殊ニ現今米國ニ於テハ資本ノ集中夥シク幾多重要ナル会社ハ今後我國ニ投資セント欲シテ既ニ其研究ヲ遂ゲ居レバ此等ノ会社又ハ企業者ガ墨國ニ來集スルハ又遠キニアラザルベシ

又米國ニ於ケル一般労働階級及社會主義者ハ何レモ墨西哥ニ對スル熱心ナル同情者ナルト同時ニ合衆國ニ於テハ決シテ侮ルベカラザル勢力ヲ有スル婦人團モ亦對墨修交ノ有力ナル防禦者ナリ

右及報告候 敬具

五九六 三月十五日 在墨国太田臨時代理公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

カランサノ大統領當選ハ確實ナル旨報告ノ件

第一六号

三月十一日行ハレタル全国一般選挙ノ結果ガ公表セラルルハ四月下旬ナルモ今日迄ニ得タル各種ノ報道ニ拠レハ「カランサ」氏ガ絶対多数ヲ以テ大統領ニ當選セシハ確實ニシテ就任式ハ五月一日執行セラルベシ

五九七 三月十八日 在墨国太田臨時代理公使ヨリ
本野外務大臣宛

大統領當選祝賀行列ニ対スルカランサノ演説

報告ノ件

公第七五号 (四月二十一日接受)

大正六年三月十八日

在墨臨時代理公使 太田 為吉(印)

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

本月十一日墨西哥共和国大統領選挙執行セラレ憲政軍長官兼共和国執政「ヴェヌステイヤノ、カランサ」Venustiano

Caranza 氏ガ絶対多数ヲ以テ墨国大統領ニ當選(當選ノ公表ハ四月下旬ニシテ大統領就職ハ五月一日ナリトス)セル趣ハ不取敢及電報置候処当局數万ノ市民ハ他ノ地方民ト同ジク一昨十六日同氏當選祝賀行列ヲ催シ政庁前ニ会シ當選大統領ニ祝辭ヲ述べタルニ「カランサ」氏ハ之ニ対シ左記ノ如ク一場ノ演述ヲ試ミ非常ノ喝采ヲ博セラレ候

『諸君、新憲法ハ既ニ發布セラレ、国民ハ自由ニ共和国大統領ヲ選挙スルコトヲ得タリ、是レ政府カ立憲の秩序ノ恢復ニ向ッテ一大進歩ヲ遂ゲタルヲ証スルモノト言ハザルベカラズト雖モ、諸君ハ同時ニ政府ハ独立セル三権ヨリ成リ立チ居ル事ヲ記憶セザルベカラズ、来ル五月一日以降共和国大統領ハ国家ノ再興ト憲法ノ執行トニ対シ唯一ノ責任者ニアラズシテ、行政、立法及司法ノ三部共ニ等シク其責ヲ負フベキモノナリ、而シテ此ノ責任ノ負担ヲ要求スル義務ハ一ツニ国民其モノニ存在スルモノナルガ故ニ、政府ヲ組織スル三権ニシテ国民ノ信任ヲ得ザルニ於テハ、折角ノ憲法モ只無意味ノ条文タルニ終ルベシ、又立憲政府ニ於テハ国民個人ノ保障ニ関シテハ三権共等シク之ヲ監視スルノ職務ヲ有ス、蓋シ国民個人ガ充

告ノ件

第一八号

往電第七号ニ関シ Chile ハ挨拶状ヲ送り来リ三月十九日同国代理公使自カラ「カランサ」執政ニ呈シタリ尤モ当国ヨリ智利ニ送リタル親書ハ両三ヶ月前先方ニ達シタルモノナリ

五九八 三月二十四日 在墨国太田臨時代理公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

カランサ親書ニ対スル外国ノ挨拶書ニ付報告

ノ件

第二〇号

拙電第一八号後 Salvador ハ三月二十一日 Argentine ハ同二十二日挨拶書ヲ呈セリ

六〇〇 四月四日 在墨国太田臨時代理公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

ヴェラククルース州知事選挙出馬ノ為墨国外相

辭職ノ件

第二七号

当国外務大臣「アギラール」將軍ハ「ベラククルーズ」州知

分此ノ保障ヲ得ルニアラザレハ、国内永久ノ平和ハ期シテ望ムベカラザレバナリ、

故ニ国民ハ今後充分当局ニ向ッテ法規ノ厳行ヲ要求スベキ責任ヲ有スル者ナリ、

余ハ諸君ガ、他地方共和国市民ト共ニ国家ノ為メニ大統領ヲ援助スル覚悟アルヲ確信スル者ナルガ故ニ、今更メテ諸君ニ希望スル所ハ、将来諸君ハ其有スル權利ヲ飽迄行使セラルベキ事はナリ、蓋シ国民各個人ガ完全ニ此ノ權利ヲ行使スルニ於テハ国民ノ上ニ専制者ノ現出スベキ筈ナケレバナリ、

尚終ニ一言スベキハ、若シ国民ノ意思ガ余ヲ共和国大統領ノ位置ニ運ブ事アリトセバ余ハ曾テ「コワウイラ」州ノ憲政知事タリシ時ノ如ク、熱心ニ且絶対ニ法律ヲ尊重シテ己ガ職責ヲ完ウセンコトヲ諸君ノ前ニ誓言セント欲ス、』

右御参考ノ為メ及報告候 敬具

五九八 三月二十二日 在墨国太田臨時代理公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

カランサ親書ニ対スル智利国ノ挨拶状ニ付報

事候補者タランガ為メ三月二十六日辞表ヲ呈シ四月二日聞届ケラレタリ後任者ニ関シテハ外交官仲間其他ニ於テ種々噂アルモ今日迄ニ本官ノ知ル処ヲ以テセバ「カランサ」氏ハ当分外務大臣ヲ任命セズ次官 Garzanopez 氏ヲシテ現任ノ仮署理セシムルモノノ如シ然シテ「アギラール」將軍ノ将来ニ関シテハ機密第五号拙信記載ノ事情アルモ「カランサ」氏ハ同將軍当選後或ハ再び之ヲ外相ノ位置ニ呼戻スニ至ランカトモ觀察セラル

六〇一 四月二十日 在墨国太田臨時代理公使ヨリ
本野外務大臣宛

墨国内閣官制改正ノ件

公第二〇五号 (五月二十九日接受)

大正六年四月二十日

在墨臨時代理公使 太田 為吉(印)

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

墨国内閣ハ従来外務、内務、大蔵、司法、文部、農商務、通信及陸海軍ノ八省ヨリ成リタルカ、共和国憲法改正ノ結果トシテ政府ハ本月十三日附ヲ以テ之ヲ左記ノ如ク六省三局ヲ設クル事ニ改正シ来ル五月一日ヨリ実施スル事トセリ

附公第八七号ヲ以テ)セル通りナリ、

尚以前ノ司法省及文部省ヲ低格シテ之ヲ司法局及文部局トナシタルハ憲法改正ノ結果連邦制度勵行ニ由ルモノニシテ墨国各州ハ連邦政府ト関係ナク、個々獨立シテ司法及文部ニ關スル官制ヲ有スルガ故ニ、従来ノ司法省及文部省ナルモノノ管轄權ハ僅ニ連邦区及連邦領ノミニ止マリ各州ニ及バズ、從テ獨立ノ二省存在ノ必要ヲ認メザルガ故ナリ又衛生局ハ是迄内務省ノ一局ナリシガ之ヲ昇格シテ大統領直屬ノ一局トナシタルハ墨国新政府ガ内國衛生ノ事務ニ重キヲ置クニ至リタル事ヲ示スモノト云フベシ、

此段及報告候 敬具

六〇二 四月三十日 在墨国太田臨時代理公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

墨国議會力ランサ大統領當選宣言ノ件

第二七号

拙電第一六号ニ関シ

墨国議會ハ大統領投票審査ノ結果四月二十六日「カランサ」氏ノ大統領當選ヲ宣言セリ

記

六省、Las Secretarias:

國務省 Secretaria de Estado.

大蔵省 Secretaria de Hacienda y Crédito Público.

陸海軍省 Secretaria de Guerra y Marina.

通信省 Secretaria de Comunicaciones.

農務省 Secretaria de Fomento.

商工務省 Secretaria de Industri y Comercio.

三局 Los Departamentos:

司法局 Departamento Judicial.

文部局 Departamento Universitario y de Bellas

Artes.

衛生局 Departamento de Salubridad Pública.

而シテ國務省ハ従来ノ外務省ト内務省トヲ合併シタルモノニシテ、大蔵省、陸海軍省及通信省ハ依然元ノ通りナルガ、農商務省ニ至リテハ従前ノ同省附屬商工局ヲ昇格シテ獨立ノ一省トナシ之ヲ商工務省ト稱スルコトト為シ從來ノ所謂農商務省 Secretaria de Fomento ナルモノハ専ラ農務ニ關スル事務ヲ取扱フコトトナリタルハ曩ニ報告(本月五日

六〇三 四月三十日 在米国佐藤大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

墨国祝賀会ニ対スル米国及仏国ノ態度ニ關スル仏国側ノ通報ヲ太田代理公使へ電報ノ件

第一六一号

本使宛在墨代理公使宛

第二二号

一日貴地開催祝賀会ノ際米国大使ハ Courtesy トシテ參列スヘキモ何等 final recognition ヲ意味スルカ如キ言動アルヘカラサル旨訓令ヲ受ケ居ル处在貴地仏国公使ハ右米国大使ト同様ノ態度ヲ執ルヘキ旨ノ訓令ヲ受ケタリ各国可成一致ノ態度ニ出ヅル方望マシトテ参考迄トシテ右ノ次第仏国大使ヨリ通知シ来レリ

六〇四 四月三十日 在墨国太田臨時代理公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

墨国祝賀会ニ対スル米国及仏国ノ態度ニ關連シ我方ノ立場ニ付意見開示ノ件

第二九号

(五月二日接受)

在米大使へ左ノ通

第一〇号

医術自由開業ニ関スル日墨互恵協定ハ客年末当地ニ於テ商議ヲ遂ケ今回調印取計方訓令アリ四月二十六日付ヲ以テ本三十日調印ヲ了シタルガ如キ事情モアリ旁帝國ノ利害關係ハ必ズシモ他國ノ夫ト同ジカラサルモノアルヤニ考ヘラル而シテ米仏ガ貴電第二二号ノ如キ態度ヲ持スルハ協商側乃至彼等ノタメニモ利益ナリヤ本官ハ之ヲ疑フ次第ナリ尤モ五月一日ノ「リセブション」等ニ関シテハ何等訓令ヲ受ケ居ラサルニ付トノ途本官ニ於テ政府ヲ拘束スルカ如キ行動ヲ為シ得ル理由ナシト雖右ノ筋合ハ此際一応御含置アリタシ

六〇五 五月二日

在墨國太田臨時代理公使ヨリ
本野外務大臣宛

墨國大統領就任祝賀式上ノ米國大使仏國公使
ノ態度ニ關聯シ我國独自ノ立場ニ付稟申ノ件

機密公第一五号

(六月十四日接受)

大正六年五月二日

在墨臨時代理公使 太田 為吉(印)

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

会ニ際シ「カーテシー」トシテ之ニ参列スベキモ何等「ファイナル、レコグニション」ヲ意味スルガ如キ言動ヲ差控フベキ旨其本國政府ヨリ電令ヲ受ケ居ル処駐墨仏國公使ハ右米國ト同様ノ態度ヲ執ルベキ旨ノ電令ヲ受ケ居ル趣ヲ以テ在当地仏國大使ヨリ各國成ルベク一致ノ態度ニ出ヅル方望マシカルベシトテ参考トシテ右ノ次第通知アリタリ」

ト米電アリシニヨリ大統領宣誓式場及接見當時ニ於ケル米仏代表者ノ行動ヲ注意セルモ格別他ノ外交官ト異ル所アルヲ發見セザルノミナラズ翌五月二日ノ新聞ニヨレバ米國大使ノ如キハ自己ノ賀辭以外別紙切抜ノ如ク米國民(即チ米國主權者)ノ名ニ於テモ賀辭ヲ呈シ居ル始末(接見室ノ一部ハ各外交官ノ溜リト成リ居タルモ広大ナル間ナリシヲ以テ聞キ取ルヲ得ザリキ只独逸公使ハ原稿ニヨリ非常ナル高声ヲ以テ朗読セシ為メ遠方迄聞コエ別紙新聞切抜中ニ在ル如ク独逸皇帝人民及墨國在留民ノ名ニ於テ祝辭ヲ述ベタリ)ナリシヲ以テ右佐藤大使ノ電報ノ事實ニ鑑ミ聊カ異樣ノ感ヲ生シ為念其ト無ク取調タルニ右米仏代表者カ「カーテシー」トシテ当日ノ各儀式ニ参列セリト云フヲ得ベキ証

墨國大統領就任ノ際ニ於ケル「リセブション」

ニ關シ報告ノ件

從來墨國憲政軍長官兼墨國執政タリシ「ヴェヌスチアノ、カランサ」氏ノ大統領當選ハ四月二十六日議會ニ於テ宣言セラレ五月一日如予定墨國大統領ニ就任セシ次第ハ隨時ノ拙電ニテ御承知ノ通ニ有之候而シテ五月一日議會ニ於ケル就任宣誓式終ルヤ大統領ハ直ニ政庁ニ還リ此処ニ外國代表者ヲ別々ニ引見セルヲ以テ本官ハ就任ノ賀辭ヲ簡單ニ述ベ尚今後モ從來ト同シク職務執行ニ付キ便宜ヲ与ヘラレンコトヲ希望スル旨附言シタルニ大統領ハ右賀辭ニ對スル謝意ヲ述ベタル上

日墨ノ親交ハ余ノ衷心冀フ処ナルヲ以テ貴官ノ職務執行ニ對シテハ余及余ノ政府ニ於テ及ブ丈ケ尽力スル積ナリ、余ハ貴官カ余ノ冀望ヲ日本

天皇陛下ニ御伝ヘアランコトヲ希望ス

ト述ベラレ此レニテ本官ノ引見ハ終リタルカ是ヨリ先キ該大統領就任当日ノ接見ニ關シテハ四月三十日在米佐藤大使ヨリ

「在墨米國大使ハ五月一日貴地ニ於テ開催セラルル祝賀

擧ハ一モ存在セズ服裝ノ如キモ米國大使及書記官ハ燕尾服、武官ハ皆大礼服ヲ着用シ仏國公使及館員モ一樣大礼服ヲ着用セシ次第ニシテ執レモ當國外務省ニ向テ為後日何等留保セシコトモ無キ事實ニ有之候

而シテ米國政府從來ノ行動ヲ見ルニ例ヘハ既ニ正式ニ大使ヲ墨國ト交換シ或ハ本年三月十六日附國務長官ノ書翰ニ於テハ「カランサ」氏ニ對シテ President elect ナル文字ヲ用ヒ居ルカ如キアリ又墨國大統領選舉ノ翌日直ニ「カランサ」氏ニ向テ當選ノ祝電ヲ發シタルハ米國大使「フレッチャー」ナルカ如キ事實モアリ米國政府カ今ニ及ンデ佐藤大使來電ニ在ルカ如キ訓令ヲ為スハ聊カ論理ノ矛盾セルモノアル上ニ法理上正確ノ意味ヲ疑ハルル「ファイナル、レコグニション」云々ト云フカ如キ文句ヲ掲ケ在米仏國大使又之ニ贊同シ居ルカ如キハ其真意頗ル疑フベキモノアリ或ハ其期スル処現戰爭ニ於ケル共同地位ヲ利用シテ之ト全然關係ナキ墨國新憲法乃至新政府承認問題ニ於テモ我ヲ誘引シテ彼等ノ側ニ立タシメント画策セシモノナランカトモ考ヘラル換言スレバ五月一日ヨリ實施ノ墨國新憲法ニ對シテハ英米仏ノ如キ墨國ニ重大ナル利害關係ヲ有スル諸國ハ大ニ

不平ヲ有シ米國ノ如キハ客年十二月憲法議會開會中既ニ新憲法第二十七条ニ対スル一種ノ抗議の意見ヲ提出シ（客年二月十八日附公第六七号拙信参照）又英國ノ如キハ在當地同国公使館事務代理ノ云フ処ニヨレバ損害賠償其他新憲法上ノ問題ニ付キ将来ノ保証ヲ得サレハ之ヲ承認スルヲ得スト云ヒ仏國ノ如キモ殆ンド同一事情ノ下ニ在ルカ故ニ彼等ハ今日ヨリ将来ニ処スベキ口実ヲ作ラント工夫シ現時ノ戰爭關係ヲ利用シテ我國ヲモ之ニ引込マントセシモノナルヤ計ラレサル処我カ現在迄ノ損害程度ハ彼等ニ比シテ甚ダ歎キト又在留民ノ事情ヨリスルモ彼我大ニ異ルモノアリ從テ戰爭ト何等關係ナキ承認問題ニ迄彼等ノ欲スル処ニ追從シテ墨國政府及国民ノ対日好感ヲ喪失シ在留民及帝國将来ノ利益ヲ傷付クルカ如キハ甚タ不得策ノモノト思考セラルル事情アリ且墨國政府ノ本問題ニ対スル態度ハ嘗テ前外相「アギラール」將軍カ本官ニ対シ「欧米諸國中ニハ新憲法ニ不平ナルヲ理由トシテ該憲法及大統領ヲ認メスト云ヒ居ルモノ有ル由ナルモ彼等カ承認セサルモ墨國ハ墨國ナリ國トシテ立チ行クニ何等ノ妨ケナク又彼等ニ是非承認シテ貰フ必要ナシ」云々ト語ラレタルニ就テ考フルモ頗ル強硬ナ

ルモノアルカ如クナルヲ以テ米仏等カ承認問題ヲ楯トシテ好ク新憲法ヲ改正セシメ又ハ損害賠償問題ニ満足ナル解決ヲ得ベキヤハ余程疑問ニ属スルカ故ニ我國トシテハ大ニ戒心シテ彼等ノ言フ処ヲ吟味セザルベカラズ而カモ彼等ニシテ万一其欲スル処ヲ遂ケ憲法改正乃至損害賠償ノ保証ヲ贏チ得ルカ如キコトアランカ我ニ於テモ後日之ニ均霑シ得サル理由ナキニ於テオヤ尚方面ヲ変シテ近来表面ニ現ハレタル米國政府ノ對墨態度ヲ見ルニ例ヘハ駐米墨國大使「ボニヤス」氏信任狀捧呈ノ際異例ニモ「ランシング」國務長官自身之ヲ墨國大使館ニ迎ヘタルヲ始メトシ新聞ノ伝フル処ニ拠レバ墨國政府ノ好感ヲ惹起サセントスル種々ナル宣言ヲ試ムルアリ又在當地「フレッチャー」大使ノ如キモ着任以來方法ト手段ヲ扱バス當國政府及人民ノ歛心ヲ得ルニ力メ先般議會ニ於テ民衆ノ反感の示威運動ヲ經驗セシ以來ハ新聞ニ於テ米國ノ對墨好感及兩國親善ヲ高唱シ排米思想ノ驅逐ニ一層力メ居ル事情ナルヲ以テ在米大使ノ電報中ニ見エタルカ如キ電令ハ聊カ此等ノ事情ト一致セサル様ニモ被存更ニ在當地米國大使カ如此精神ヲ以テ果シテ行動シ得ルヤハ接電當時聊カ之ヲ

疑ヒタル次第ニシテ儀式當日ニ於ケル同大使（仏國公使モ然リ）ノ行動ハ既ニ前記ノ通り右電令ト無關係ノ如キ觀アル以上在米仏國大使カ仮リニ其筆頭ノ地位ニ在ル為メ我大使ニ右ノ通知ヲ為シタリトスルモ聊カ解シ得サル点アルト共ニ或ハ又右ハ在當地仏國公使カ先般議會開院式ニ於ケル出来事ニ懲リ墨國人ニ比較的氣受ケ好キ我公使館（議會開院式ニ臨ム際最モ衆人ノ喝采セシハ本官一行及独逸公使一行ニシテ仏國公使及館員ハ頻リニ如此喝采ノ多少ヲ氣ニシ居タリ）ヲシテ自己等ト挙動ヲ一ニセシメバ前月ノ如キ不体裁不愉快ナル出来事ナカルベシト考ヘタル結果在米同國大使ニ何等猷策シタルモノナルヤモ不計而シテ五月一日仏國公使ハ群集ニ近寄ル際ハ必ズ常ニ本官ノ附近ニ居ルヲ力メ居タル事実ニ徴スレバ斯ク推測スルモ強チ穿チ過キタルモノト言フヲ得サルカ如シ

故ニ孰レノ点ヨリスルモ米仏等カ墨國ニ對スル行動ニ付キ我ヲ誘ハントスルハ縱令名ヲ共同ノ利益ニ借ルモ容易ニ信ヲ置キ難ク寧ロ我ヲ利用シテ自己ノ便益ニ供セントスル場合多キモノト觀察スル方安全ナルカ故ニ勿論彼等ノ猜疑嫉妬ヲ挑発スルカ如キ行動ハ之ヲ慎ム要アルモ我ハ常ニ彼等

ニ売ラレザルノ用意ヲ要シ共同利益ノ為メ絶對ニ必要ナル場合ノ外事毎ニ我本来ノ立場ヨリ打算シテ適宜ノ措置ヲ為ス必要アルモノト思考ス而シテ此事情ハ今後墨國ニ關スル國際問題アル毎ニ注意ヲ要スル点ト存候間本件報告旁一言ヲ附シテ御參考ニ供候敬具

本信寫送付先 在米大使

註 新聞切抜省略

六〇六 五月四日 本野外務大臣ヨリ 在墨國太田臨時代理公使宛（電報）

我对墨政策ニ關シ米國ノ猜疑心ヲ挑発シ又ハ連合諸國ノ疑念ヲ誘起セシメザル様訓令ノ件

第一四号

貴電第二九号ニ關シ墨國ニ對スル帝國ノ立場ハ往電第一〇号ニテ御承知ノ通りナリ從テ不必要ナル米國ノ猜疑心ヲ挑発スルカ如キ行動ハ米國參戰ノ今日一層之ヲ避クルノ必要アリ殊ニ連合諸國ヲシテ帝國ノ對墨策ニ些少ニテモ疑念ヲ挟マシムルコトハ甚タ面白カラサル事態ヲ生セシムル虞アルニ付貴官ノ行為ガタトヘ帝國政府ヲ拘束スルナキ場合ト

雖モ本件ノ極メテ「デリケート」ナルヲ篤ト御含ノ上御措置アルヘク右為念電報ス

六〇七 五月四日 本野外務大臣ヨリ
在米國佐藤大使宛(電報)

我对墨策ニ関シ太田代理公使宛電訓ノ趣電報ノ件

第一三九号

貴官宛太田發電信第一〇号ニ関シ不必要ナル米國ノ猜疑心ヲ挑発スルカ如キ行動ハ米國參戰ノ今日之ヲ避クヘク殊ニ連合諸國ヲシテ帝國ノ對墨策ニ些少ニテモ疑念ヲ挟マシムルコトハ面白カラサルニ付其ノ含ヲ以テ措置スヘキ旨電訓セリ右貴官參考迄電報ス

六〇八 五月七日 在墨國太田臨時代理公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

墨國新政府承認問題ニ對スル本邦ノ態度ニ関シ請訓ノ件

第四二号

貴電第一四号ノ御注意敬承五月一日大統領就任「レセプション」ニ於テハ米國大使及仏國公使ノ行動ガ在米日本大使

在墨臨時代理公使 太田 為吉(印)

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

「カランサ」長官本月一日墨國大統領ニ就職シ同時ニ新憲法ハ実施セラレ墨國ハ愈々憲政政府ヲ見ルニ至リタル次第ナルモ未タ財政ニ関スル法律ナキ為メ政府ニ於テハ差當リ是レガ運轉ヲ為スニ困難ナル事情アルニ鑑ミ同日以前即チ憲法停止時代ニ同長官ガ帶ビ居リタル非常權能ヲ依然行使スルヨリ外ナキヲ認メ新大統領ハ翌二日議會ニ向ツテ本件非常權能ヲ附与センコトヲ請求セシニ上院ニ於テハ是ニ對シ多少反對ノ行動ヲ執リタル者ナキニアラザリシモ結局去ル八日左記ノ如ク大統領請求通り該權能ヲ附与スル事ト相成候

記

墨西哥合衆國議會ハ左記ヲ布令ス、

第一条、合衆國議會ガ將來連邦政府ノ財政運轉ヲ規則正シ

クスル為メノ法律ヲ發スル迄、大統領ニ對シ財政ニ

関スル非常權能ヲ交附ス、

第二条、本令ニヨリ交附セラレタル非常權能ノ行使ニ関シ

テハ大統領ハ之ヲ議會ニ報告スヘシ、

一四 「メキシコ」革命動乱關係一件 六〇九

ノ電報中ノ事實ト多少相違シ居タル外格別注意ヲ惹クモノナカリシ而テ本官ハ近來ノ米國政府及在墨大使ノ態度上右在米日本大使電報ニ現レタル米國ノ態度ニ不審ヲ抱キ米仏等ハ或ハ現戰爭ニ於ケル共同地位ヲ利用シ之ト關係ナキ承認問題ニ迄モ我ヲ引込ミ彼等ノ損害賠償問題ニ利用セントスル下心アルニ非スヤトモ感ジラレ且目下在米中ノ英仏特使等ニ於テ墨國ニ関スル事項ヲ議スルコトモアラバ墨國ニ氣受宜キ日本ヲ利用セントノ議生ズルナキヲ保セズトモ思考セラル為念在米日本大使ニハ拙電第一〇号ヲ發シタル次第ナルガ帝國政府ニ於テハ米國ノ所謂「ファイナル、レコグニション」云々ノ問題ニ對シ如何ナル態度ヲ採ラルベキヤ本官心得迄ニ一応御回訓ヲ請フ
在米日本大使濟

六〇九 五月十三日 在墨國太田臨時代理公使ヨリ
本野外務大臣宛

墨國議會カランサ大統領ニ國家財政ニ関スル非常權能附与ノ件

公第一二〇号 (六月二十日接受)

大正六年五月十三日

以上

尚議會ハ同日ヲ以テ五、六ノ兩月ニ對スル政府支出予算額ヲ左記ノ範圍内トスル事ヲ協賛セリ(墨國會計年度ハ毎年七月一日ニ始マリ翌年六月三十日ニ終ル)

記

- 一金、三〇〇、〇〇〇円也 立法部經費
- 一金、一、二〇〇、〇〇〇円也 大統領庁經費
- 一金、八〇〇、〇〇〇円也 國務省經費
- 一金、一、四〇〇、〇〇〇円也 大藏省經費
- 一金、一八、〇〇〇、〇〇〇円也 陸海軍經費
- 一金、一、〇〇〇、〇〇〇円也 通信省經費
- 一金、四〇〇、〇〇〇円也 農務省經費
- 一金、四〇〇、〇〇〇円也 商工務省經費
- 一金、八〇〇、〇〇〇円也 連邦区知事庁經費
- 一金、三〇〇、〇〇〇円也 司法局經費
- 一金、二〇〇、〇〇〇円也 文部局經費
- 一金、二〇〇、〇〇〇円也 衛生局經費
- 一金、二五、〇〇〇、〇〇〇円也 合計

以上(註、円はベツ)

右及報告候 敬具

六一〇 五月十四日 本野外務大臣ヨリ
在米田佐藤大使宛(電報)

墨国大統領就任祝賀会席上ノ在墨国米国大使
及仏国公使ノ行動取調方並墨国政府承認問題
ニ対スル我方方針ニ関スル件

第一五〇号

在墨太田ヨリ貴官ニ転電ノ同官発本大臣宛第四二号前段ニ
関シ在墨米国大使及仏国公使ノ行動ハ貴官ヨリ太田宛發電
中ノ事実ト多少相違シ居レリトノコトナルカ右ハ如何ナル
点ナルヤヲ太田ニ御確メノ上貴官ニ於テ必要ト認メラルル
ニ於テハ米国当局及貴地仏国大使ト御談話ノ上何分ノ回電
アリタシ尚墨国 final recognition ノ問題ニ関シ最モ利害
関係ヲ有スルハ米国政府ナルニ付帝國政府ハ本問題ニ関シ
米国竝英仏ヲ差置キテ何等ノ措置ヲ取ル意思ナキニ付貴官
ハ右ヲ貴官限リノ考トシテ自然本問題ノ話頭ニ上リタル機
会ニ國務長官ト談話セラレ米国政府ニ於テモ帝國政府ト本
問題ヲ隔意ナク協議セラレタキ旨内密ニ申入レラレ結果電
報アリタシ又前記太田発第四二二号ニ対シ本大臣ノ訓令トシ

ヘ居レリ但独乙公使ガ本国ヨリノ訓令トシテ皇帝ノ祝辞ヲ
呈シタルハ本日外務次官ノ談話ニテ確メタリ
在米大使済

六一二 五月十八日 在墨国太田臨時代理公使ヨリ
本野外務大臣宛

墨国議會大統領ニ国庫收入処理ノ非常権能附与ノ件
公第一二五号 (六月二十日接受)

大正六年五月十八日

在墨臨時代理公使 太田 為吉(印)
外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

墨国議會ガ財政ニ関スル非常権能ヲ大統領ニ交附シ尚五、
六ノ兩月ニ対スル支出予算額ノ範圍ヲ協賛セル事ハ本月十
三日附公第一二〇号拙信ヲ以テ及報告置候処議會ハ去ル十
五日国庫收入ニ関スル件ニ付キ左記ノ如ク議決セリ

記

議會ハ大統領ニ対シ、憲政軍長官兼共和国執政ガ發シタ
ル命令ニ基キ国庫ノ收入ヲ処理スルノ権能ヲ承認ス、但
シ本条ノ議決ハ今後議會カ該令ヲ廢棄スルカ又ハ之ヲ變
更スル迄其効力ヲ有ス

テ final recognition ノ問題ハ之ニ最モ利害關係ヲ有スル米
国其他英仏ノ態度ヲモ考量スルヲ要スルニ付追テ適當ノ時
期ニ何分ノ訓令ニ及ベキ旨太田ヘ極秘含トシテ転電アリ
タシ

六一一 五月十五日 在墨国太田臨時代理公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

墨国大統領就任祝賀式ニ於ケル米国大使仏国
公使ノ態度等報告ノ件

第四四号

在米日本大使転電御訓令ニ関シ委細ハ五月二日附機密第十
五号拙信(在米日本大使ヘ写送済)ニテ報告セルモ要スル
ニ米仏代表者ガ「カーテシー」トシテノ参列ナルコトヲ墨
国政府ニ留保セシガ如キコトモナク総テ一樣ニ大礼服ヲ着
ケ大統領ニ賀辞ヲ呈シ米国大使ノ如キハ(接見ハ各国別々
ナリシニヨリ聴取レザリシモ信用スベキ新聞記事ニ拠レ
バ)國民ノ名ニ於テ賀辞ヲ呈シタル様子ナリ尚兩三日來諸
新聞ノ伝フル所ニ拠レハ仏国大統領及英國皇帝等ヨリ既ニ
「カランサ」氏ニ就任ノ祝電來レル旨報ジ居ルニ付事実取
調度ト考ヘ居ルモ聊カ「デリケート」ナル点アルニ付差控

右及報告候 敬具

六一三 五月二十五日 在米田佐藤大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

墨国政府承認問題ニ関シ國務長官ト談話ノ件

第一九七号

二十四日國務長官ニ面会ノ節貴電第一五〇号中段ノ通談話
シタルニ同官ハ墨国ノ「デフハクト」政府ハ之ヲ承認シ大
使ヲ交換スル迄ニ至リタルモ同国ノ前途尚不安ナルコト及
独逸關係等モ考慮スル必要アリ先ツ当分ハ此ノ假ニ推移シ
タキ考ナリト述ヘタルニヨリ若シ米国政府ニ於テ「フアイ
ナル、レコグニション」ヲ与ヘラルルコトニ決定セハ速ニ
当方ヘ通知アリタキ旨依頼シ其ノ承認ヲ得タリ
墨ヘ転電セリ

六一四 五月二十六日 本野外務大臣ヨリ
在米田佐藤大使宛(電報)

墨国大統領就任ニ対シ英仏各国元首ヨリ祝電
ノ実否取調方ノ件

第一六三号

貴電第一九七号ニ関連シ「カランザ」就任ニ対シ仏国大統

領及英國皇帝等ヨリ祝電ヲ寄セタル旨墨国新聞紙上ニ伝ヘラレタル趣本大臣宛在墨代理公使来電第四号ノ通ナルカ該事実ハ無根ト思ハルモ貴地ニテ適當ノ機会ニ確カメラレタル上回電アリ度シ

六一五 五月二十八日 在墨国太田臨時代理公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

前外相アギラール將軍ノ外相再任問題ニ関スル同將軍ノ談話報告ノ件

第四七号

前外相「アギラール」將軍来市セルニ依リ五月廿六日之ト会谈シ得タル所ヲ綜合スレハ左ノ如シ

一、大統領ハ拙電第二七号ニ予想セル通り同將軍ヲ再外政ノ局ニ当ラシメントスル意向ナルモ議會ハ「オブレゴン」派多数ヲ占メ居ルニ由リ聊カ形勢ヲ觀望シ任命ヲ躊躇シ居ルコト

(以下省略) (註)

註 省略ノ部分ハ日本外交文書大正六年第三冊ニ於テ採録シタリ

六一六 五月二十八日 在米国佐藤大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

墨国大統領就任ニ対スル英仏元首ヨリノ祝電ノ報道ヲ國務省当局者否定ノ件

第二〇五号

貴電第一六三号ニ関シ國務省当局者ニ聞キ質シタル処本件ハ事実無根ナルベキ旨語レリ

六一七 五月二十九日 在墨国太田臨時代理公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

墨国政府承認問題ニ関シ請訓ノ件

第四八号

左記ノ点ニ付本官ノ含迄ニ何分ノ儀御回訓ヲ請フ
(前段省略) (註)

二、在米大使往電第一九七号末段ハ承認問題ニ対スル帝國政府ノ態度ヲ米國政府ノ夫レニ追從セシムルコトヲ暗示スルモノナルガ如クニモ解セラルル処本件ニ付テハ未タ何分ノ御訓令ニ接シ居ラザルニ付本官ニ於テハ依然帝國政府ノ方針未定ノモノト解シ居ル次第ナルガ之ニテ差支ナキヤ、右在米大使へ参考迄ニ転電セリ

註 省略ノ部分ハ日本外交文書大正六年第三冊ニ採録セラレタリ

六一八 六月一日 本野外務大臣ヨリ
在墨国太田臨時代理公使宛(電報)

歐洲大戰ニ対スル墨国ノ中立及承認問題ニ関

シ回訓ノ件

等一六号

貴電第四八号第一項「アギラール」カ墨国ノ執ルヘキ態度ニ関シ貴官ニ相談ヲ持込ムヤモ計ラレサル如キ口吻ヲ洩ラシタル趣ナルガ同国当局ヲシテ此ノ如キ意向ヲ有セシムルニ至リタル事情詳細電報アリタシ尚其際墨国ノ内政ニ立入り為メニ米國其他ノ疑心ヲ挑発スル如キハ厳ニ之ヲ避クヘキコト数次ノ電訓ニ依リ御心得ノ答ナルカ殊ニ墨国ノ中立ニ関シテハ差当リ何等ノ意見ヲ發表スルコト無ク全然無干渉ノ態度ヲ採ルヘシ又貴電第二項承認ノ件モ米國政府ニ於テ佐藤大使ヨリ貴官へ転電ノ同大使発本大臣宛第一九七号ノ通当分其旨ニ推移セシムル以上ハ帝國政府ハ之レニ先タチ何等ノ措置ヲ採ルノ意ナキニ付貴官ハ是亦何等立入ルコトナク其旨ニ為シ措カルヘシ右訓令ス

六一九 六月一日 本野外務大臣ヨリ
在墨国太田臨時代理公使宛(電報)

一四 「メキシコ」革命動乱関係一件 六一八 六一九 六二〇 六二一

墨国大統領就任ニ対シ英仏各國政府ヨリ祝電發送ハ事実無根ノ件

第一七号

貴電第四四号中「カランザ」就任ニ対シ英仏政府ヨリ祝電發送ノ実否ニ関シ佐藤在米大使ヨリ同國國務省當局ニ問質シタル処事実無根ナルヘキ旨答ヘタル趣ナリ右御参考迄

六二〇 六月八日 本野外務大臣ヨリ
在桑港填原總領事宛(電報)

ヴィラ將軍本邦人三名ヲ射殺セシ旨ノ新聞電報ニ付問合ノ件

第一九号

六月一日桑港發当地報知新聞ヘノ電報ニ拠レハ四月六日墨国ヴィラ將軍ハ宮城県人三上某福島県人渋谷某、関根某ノ三名ヲ捕縛シ何等審問ヲ行ハズシテ自ラ彼等ヲ射殺セリトアリ右事実ノ真否貴地ニテ分明ナレハ回電アリタシ本電本大臣ノ訓令トシテ在墨太田代理公使及在ロスアンゼルス領事へ転電アレ

六二一 六月九日 在羅府大山領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

ヴィヤ將軍本邦人射殺説調査ノ件

第一四号

在桑港総領事宛外務大臣發電第一九号ニ関シ何等聞込タル事ナキモ念ノ為メ至急取調ノ上結果電報スヘシ

六二二 六月十日 在墨国太田臨時代理公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

ヴィヤ將軍本邦人射殺ニ関シ「チワワ」日本

人会報告ノ件

第五二号

在桑港総領事宛貴電第一九号ニ関シ六月七日着在「チワワ」日本人会ヨリノ報告ニ依レハ Villa カ右邦人三名ヲ銃殺セルハ事実ニシテ其原因ハ過般米国軍隊同地方ニ駐屯中藤田小太郎、条勉外二三ノ邦人同軍隊ノ請託ヲ受ケ「ビイヤ」ヲ毒殺セントシテ(客年公第一五八号及ヒ第一六六号拙信等参照) 発覚シ「ビイヤ」カ邦人ヲ仇敵視スルニ至リタル為メニシテ被害地「サンヘロニモ」ハ元条等ノ居住地ナルニ依リ今回在同地邦人ニ復讐ヲ試ミタルモノト推定セラル又「ビイヤ」ハ同時ニ条ノ内縁ノ妻及其子ニ凌辱ヲ加ヘタリト

公第二五七号

(七月五日接受)

大正六年六月十二日

在桑港総領事 埴 原 正 直(印)

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

本件ニ関シテハ往電第三十一号并ニ三十二号ヲ以テ不取敢電報致置候処当地報知新聞所掲ノ桑港電報ノ根拠タル在「エルパソ」新世界通信員岩谷文治ノ電報ハ本月一日発行ノ同紙上ニ掲載サレ候ニ付右切抜并ニ同新聞ノ問合セニ対スル同人ノ回報写茲ニ差進候間御査閲相成度候 敬具
追而往電第三十二号後段ヲ以テ申進候通右岩谷文治ノ通信ハ全然同地ヘノ避難者并ニ被害者ノ知人ニ就キ聞知シタルモノニ有之現場ヲ目撃シタルモノノ言ニ無之ヲ以テ直ニ該通信ヲ事実ナリト断定シ得ザル次第ニ有之候去リトテ此上更ニ真否ヲ確ムルニハ到底特ニ同地方ニ人ヲ派シテ調査セシムルノ外無之ト被存候右為念重テ申進候
写送付先、在墨国公使

註 別紙新聞切抜省略

(附屬書)

在エルパソ新世界通信員岩谷文治ノ回報写

尚ホ本官ハ六月八日当国國務省ニ向テ事件ノ調査及ビ邦人保護方ヲ照会セリ

註 公第一五八号ニ付テハ日本外交文書大正五年第一冊五一七文書、又公第一六六号ニ付テハ同書五二一文書參看

六二三 六月十一日 在桑港埴原総領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

ヴィヤ將軍本邦人射殺ハ事実ナル旨新聞社回

答ノ件

第三一号

貴電第一九号ニ関シ該電報ハ当地新世界ノ在「エルパソ」通信ニ依ルモノナル処真偽不明ノ廉アルニ付念ノ為同新聞社ヲシテ更ニ同人ニ問合サシメタル処右ハ事実ナリト返電アリタリ

在墨公使及在ロスアンジェルス領事スミ

六二四 六月十二日 在桑港埴原総領事ヨリ
本野外務大臣宛

ヴィヤ將軍ノ本邦人射殺事件報告ノ件

附屬書

在エルパソ新世界通信員岩谷文治ノ回報写
ヴィヤ將軍邦人殺害ノ真相

附記

ヴィヤ將軍ノ邦人銃殺事件調査

暴將ビヤ邦人殺害ノ真相

國境「フワレス」市ヲ距ル西南約二百二十五哩ノ「オル、オエスト」線路ニ添ヘル「サンヘロニモ」附近ニ於テ去ル四月六日「ビヤ」軍ノ為メ宮城縣人三神、福島縣人渋谷及栃木縣人關根ノ三名銃殺セラレシハ既報ノ通りテアル由來北墨一帯内乱ノ為メ財産ハ勿論生命ヲ殺害サレシ者少カラス只交通機關不備ノ為メ一般ニコソ知ラサレト事實ハ到底事實テアル其ノ殺害ノ理由如何ニ依リテハ北墨在留日本人ノミナラス延テハ日本國家ノ為ニモ憂慮スヘキ點少カラス昨年米遠征軍入墨以來最近ニ至リ益々跋扈シ横暴ヲ極メシ山賊「ビヤ」軍現下ノ状態ハ誠ニ戰慄スヘキモノカアル「サンヘロニモ」ニテ同胞三名暴將「ビヤ」ノ為メ銃殺サレタリト傳ヘルモノアリシモ三名ヲ知ル友人誰モ信スルモノナカリシカ餘リ度々墨國人ヨリノ忠告ニ若シ萬一事實テアレハ何時危害ヲ加ヘラレルカ明ラヌ故廣島縣人村上氏ハ墨國人ヲ發シ取調ヘシニ事實相違ナキヲ報シ來ルカ未タ多クノ友人ハ半信半疑テアッタ何故ナレハ渋谷氏ハ「ビヤ」全盛時代ハ「フワレス」市ニ於テ多クノ米墨醫師ヲ部下ニ使ヒ同市病院長タリシト共ニ憲政軍ノ大佐トシテ「ビヤ」

將軍ノ爲メニハ股肱ノ士タリシ又關根氏ニ至ツテハ「サンヘロニモ」條氏ノランチニ於テ永年コックトシテ働キ「ビヤ」滞在中ハ同氏ノ料理ヨリ外決シテ食ササリシ程信用ヲ得シ人物ナレハ如何ニ考ヘテモ「ビヤ」自身ニテ殺害ナセシ者トハ思ヘス遂ニ故三神氏ノ弟亮治氏ノ發セシ調査人モ愈々殺害ノ事實ナル事ヲ確メ來レリ

正ニ銃殺セントスルヤ渋谷氏暴將「ビヤ」ニ向ヒ何故ニ余等ヲ殺サントストノ尋ネニ答ヘ『汝ハ罪ハナケレト汝等ノ同胞カ惡事ヲナス故此後日本人ハ見付次第皆殺ス』三神亮治氏ハ目下「チワワ」市ニ在リテ在墨帝國公使館へ保護方ヲ願ヒ中テアルト避難者河村米藏ノ談テアル

(附記)

墨国ニ於ケル「ウイラ」將軍ノ邦人銃殺事件

(大正六年六月十八日 政務局調)

本年六月二日報知新聞紙上ニ「ウイラ」將軍カ宮城県人三上某及福島県人渋谷某、関根某ノ三名ヲ銃殺セル由記載アリタルヲ以テ直ニ其眞偽調査方ヲ在桑港帝國総領事、在墨帝國代理公使及在「ロスアンゼルス」帝國領事ニ電訓スル所アリタル処在桑港帝國総領事及在墨帝國代理公使ヨリ何

レモ右ハ事実ト認メラルル旨回電アリ尚在墨代理公使ヨリ本件ハ先年宮城県人藤田小太郎ナル者墨国ニ派遣サレタル米国軍隊ニ食料品等ノ売込ヲ為シ居ル關係ヨリ米軍ノ間諜トナリ同県人佐藤温信、条勉及鈴木徳太郎ト共謀シ「ウイラ」將軍ノ動靜ヲ米軍ニ内報シ居リシカ条カ同將軍ヲ毒殺セントシテ発覚シタル以來同將軍カ一般邦人ヲ仇敵視スルニ至リタルニ原因シ今回元条等ノ居住地ナリシ「サンヘロニモ」(フワレス市ノ西南約二百五十哩)ニ於ケル邦人ニ對シ復讐シタルモノノ如ク又同時ニ「ウイラ」將軍ハ条ノ内縁ノ妻及其子ニ凌辱ヲ加ヘタル由ニテ本件ニ就テハ直ニ墨国國務省ニ調査方並邦人保護方照会シタル旨申越セリ又在「ロスアンゼルス」帝國領事ヨリモ「フアレス」日本人会ヨリ報告ニ接シタル趣ヲ以テ右被害ハ事実ト思ハルル旨及其ノ被害者ハ宮城県遠田郡大貫村字大貫三上篠三郎、福島県伊達郡伊達崎村渋谷伝太郎及栃木県下都賀郡関根竹三郎ナル旨回電アリタリ尚本件ニ関シテハ調査中

六二五 六月十三日

在桑港殖原総領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

ヴィヤ將軍ノ本邦人射殺事件取調ノ件

第三二号

往電第三一号ニ関シ在 El Paso 新世界通信員ノ書信ニ抛レバ邦人殺害事件ハ去ル四月六日「フワレス」市ヨリ西南約二百五十哩ヲ隔ツル「サンヘロニモ」附近ニ起リタル旨避難者河村米藏ヨリ聞込ミタルノミナラズ他一二被害者知人ノ取調べタル所ニヨルモ事実ナリトアルモ右ハ現場ヲ見タルモノノ証言ニアラザレバ此上確報ヲ得ルニハ特ニ同地方ニ人ヲ派スルノ外ナカルベシ
墨西哥羅府へ転電セリ

六二六

六月十五日

在羅府大山領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

ヴィヤ將軍ノ本邦人射殺事件ニ関シ「フアレス」日本人会ヨリ報告ノ件

第一五号

外務大臣発桑港総領事宛第一九号ニ関シ「フアレス」日本人会ヨリ要領左ノ通報告アリタリ

五月十五日商用ノタメ当地ニ來レル「チワワ」州「サンペドロ」「マデロ」村在住福島アサ及六月三日來市セル河村ノ談ニ依レハ同地ヨリ馬ニテ東方二日行程ノ「サンヘロ」

一四 「メキシコ」革命動乱関係一件 六二六 六二七

ニ耕地経営者条勉ノ使用セル土人ノ裔セル談ニ依レバ四月六日右記邦人「ビア」軍乱入ノ際「ビア」ノ命令ニテ銃殺セラレタリトアルノミナラス被害者ハ遅クトモ二週間以内ニ「マデロ」村ニ歸來スヘキ筈ナルニモ拘ハラス今ニ歸來セサルヨリ察スレハ右被害ハ事実ナルヘシ公使館ヘハ報告セリ被害者ハ宮城県遠田郡大貫村字大貫三上篠三郎福島県伊達郡伊達崎村渋谷伝太郎栃木県下都賀郡関根竹三郎右ニ付三上ノ実弟及河村ノ兩人実地取調ノタメ十四日当地出發ノ筈其ノ結果報告スヘシ
墨国、桑港へ転電セリ

六二七 八月二十二日

本野外務大臣ヨリ
在米国佐藤大使宛(電報)

墨国大統領就任ニ付「カランサ」ノ親書ニ對スル米国政府ノ態度問合方ノ件

第二七一号

在英大使へ転電アリタシ

墨国大統領就任ニ付カランザ氏ヨリ天皇陛下宛五月一日附親書ヲ在本邦墨国公使ヨリ送付シ越シタルカ右ハ貴任国政府ヘモ同様送付シタルコトト思考セラルル処之ニ對シ責任

国政府ノ態度御問合ノ上至急御回電アリタシ

六二八 八月二十二日 本野外務大臣ヨリ
在墨国太田臨時代理公使宛(電報)

墨国大統領就任ニ付「カランサ」ノ親書ニ対
スル各国政府ノ態度問合ノ件

第二七号

墨国大統領就任ニ付カランザ氏ヨリ天皇陛下宛五月一日附
親書ヲ在本邦墨国公使ヨリ送付越シタルカ右ハ各国政府ヘ
モ同様送付シタルコトト思考セララルル処之ニ対スル各国政
府ノ態度ニ関シ何等御聞込ノコトアラハ至急回電アリタシ

六二九 八月二十三日 在墨国太田臨時代理公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

墨国大統領ノ親書ニ対スル各国ノ態度回電ノ

件

第六九号 (八月二十四日接受)

貴電第二七号ニ関シ拙電第四号後半ノ新聞記事アリタル
後或機會ニ於テ仏国公使及英國公使館々員ニ夫トナク之ニ
関スル見込ヲ尋ネタルニ前者ハ事実ハ知ラサルモ斯ノ如キ
コトアリシトセハ就任通知ニ対スル仏国外務大臣ノ簡單ナ
ル「アクナレジメント」位ナルヘシト思ハル旨ヲ語り又

六三〇 八月二十四日 在墨国太田臨時代理公使ヨリ
本野外務大臣宛

「チアパス」州方面ヘ牛尾書記生派遣ニ関ス
ル件

- 附屬書一 六月二十三日附(一)及七月八日附(二)エ
スクイントラ在留本邦人ヨリノ報告
- 二 牛尾書記生ニ対スル指示
- 三 七月二十六日接到ノ牛尾書記生報告
- 四 八月二日接到ノ牛尾書記生報告
- 五 八月四日附エスクイントラ在留本邦
人ヨリノ報告

公第二〇八号 (十月四日接受)

大正六年八月二十四日

在墨臨時代理公使 太田 為吉(印)

外務大臣法学博士子爵 本野 一郎殿

当国内地方ノ秩序未タ回復セサル事情ハ從來所報ノ通ニ有
之就中南部「チアパス」州旧榎本植民地即チ「エスクイン
トラ」附近ニ於テ邦人被害ノ事件続発シ最近ニ至リテ増々
險惡ノ兆候ヲ示シ在本地重立チタル邦人ヨリ去月中別紙写
第一号ノ通り事情ヲ報告シ来リタルニヨリ此上棄テ置クコ

後者ハ断然知ラサル旨ヲ答ヘ居リ又其後ノ新聞ハ更ニ駐米
当国大使ハ「カランサ」氏ノ親書ヲ任国政府ニ送り「ラン
シング」國務長官ヨリ之ニ対シ回答ヲ差越セル旨ヲ報シ居
タルカ結局是等諸国ハ正式ニ主権者ヨリ挨拶セルモノト認
ムルヲ得ス尤モ中米諸小国及亞尔然丁ハ之ニ異リ既ニ在当
国代表者ヨリ各本國大統領ノ挨拶ヲ正式ニ捧呈セリ然シテ
先般國務省外務次官ノ談話ニテ知り得タル処ニ依レハ我國
ニ対スル「カランサ」氏ノ親書發送ハ最モ遅レ居タルモノ
ノ由ナルカ一方ニ於テ拙電第五〇号及第六三号等所報ノ形
勢ハ最近ニ至リ漸次差迫リ米國ヨリ國債借入ノ議出テ之ヲ
進メ居ルモノノ如ク本月二十一日連合通信社ノ華盛頓電報
ハ米國大統領カ同國ノ資本家ニ向ヒテ墨國政府ヲ信任スル
旨ノ証言ヲ与ヘタルコトヲ報シ居ル次第ナルニ依リ米墨間
ノ關係ハ余程良好トナリ承認問題モ自然其解決ニ近ツキタ
ルヘシト察セララルル節アルニ付帝國政府ニ於テ本問題ニ付
貴電第一六号末項ノ主義ヲ採ラルル以上先ツ以テ米國政府
ニ御打合ノ上右親書ニ対シテハ欧米諸國ノ例ト離レテ別ニ
時機ヲ見計ラヒ直接正式挨拶ヲナサル様取計ハレテハ如
何カト思考ス

トモ相成兼候ニ付キ兎ニ角一応実況ヲ調査シ出来得ル丈ケ
ノ救済方法ヲ講スル必要アリト認メ右報告書接到ノ翌日即
チ同月二日拙電第六〇号ヲ以テ館員一名派遣方稟請候処同
月七日貴電第二四号ヲ以テ御許可相成候ニ付直ニ牛尾書記
生ヲ急派スルコトニ決シ為念別紙第二号ノ注意ヲ与ヘ同月
九日未明ニ出發セシメ候処途中交通上多少ノ障害アリタル
モ同書記生ハ同月十五日「エスクイントラ」ニ安着シ事情
調査ノ上別紙第三号(七月二十六日着)及第四号(八月二
日着)ヲ差越シ当方ニ於テモ同地方ノ実情ニ鑑ミ差当リ当
國政府ニ軍隊ノ急派ヲ依頼スル外方法ナキモノト認メ本月
二日國務省外務次官「ガルサ、ペレス」氏ヲ訪問ノ上至急
「エスクイントラ」地方ニ百名ノ兵卒派遣方ヲ依頼致シ候
処同次官ニ於テモ之ヲ快諾シ直ニ陸軍当局ニ交渉スベキ旨
ヲ約シタルカ其後「エスクイントラ」在留民ヨリノ報告ニ
ヨレバ別紙第五号ノ通り去月二十九日頃既ニ官兵四拾余
名同地ニ派遣セラレ人心稍ヤ安堵セル模様ニ有之候而テ該
兵員ノ派遣ハ専ラ牛尾書記生力出先キ墨國軍憲ヲ訪問シ派
兵ヲ依頼シ是等ノ軍憲ハ予テ中央ヨリ牛尾書記生ヨリ請求
アラバ相当便宜ヲ興フル様命令ヲ受ケ居タル為メ直ニ其依

頼ニ応シタル結果ト存候而テ前記外務次官ニ対スル本官ノ依頼ニ基ク派兵ニ付テハ未タ正式ニ國務省ヨリ回答ヲ得サルモ各新聞ハ今回「アルヴァラード」將軍（ユカタン州知事）ガ「チアパス」及「ヴェラクルス」両州ノ匪賊討伐ヲ命セラレ不取敢其本営ヲ「ヴェラクルス」州「プエルト、メヒコ」ニ定メ同州及「チアパス」州一帯ノ匪賊討伐事業ニ従事スル旨ヲ伝ヘ居リ且ツ牛尾書記生ノ見聞セル処ニ依ルモ同將軍ハ最近約四千ノ兵ヲ率ヒテ「チアパス」州ニ下向セシ由ナルヲ以テ遠カラズ「エスキントラ」地方ニ其軍勢ヲ及ホスコトト被察候

將又其後「ヴェラクルス」州「オハケニア」地方在留民ヨリノ来状ニヨレバ同地方ニ於テモ匪賊横行財貨ノ掠奪ヲ被リタルモノアル由ナルニ付キ牛尾書記生ニ対シテハ帰途同地方ノ視察ヲモ為ス様申送り同書記生ノ旅程ハ多少延長スルコトト相成候処中途洪水及匪賊ノ襲撃ノ為メ鐵道線破壊サレ一層帰京ノ手間取ルコトト成リ漸ク本月二十四日帰着致候ニ付此点ハ御追認相成度同書記生ノ視察事項ニ付テハ後日報告書ヲ提出セシムル筈ニ候得共右不取敢一応及御報告候

敬具

ル「プラス、コラル」將軍ノ首府ヨリノ來援ヲ待チ居候得共未ダ來着無之候

本月三日夜當村管轄内ナル珈琲園 Finca Esmeralda（米國ノ資本ヨリ成ル）ヘ貳拾名ノ武装強盜襲來監督西班牙人某ヲ脅迫シ現金及労働者ニ供給スル商品一切ヲ奪ヒ去リ候此強盜連ハ隣村 Pueblo Nuevo ノ者タル事相分リ數日ノ後七八名捕縛セラレ候而カモ其主謀者ガ村役場員ナリシニハ驚クノ外無之候去十九日午後十時アカコヤワ村管轄内ナル邦人高田政助氏農場ニ十五六名ノ強盜現ハレ同氏所持品一切ヲ奪去候此強盜連ハ他地方ヨリ來レル風來者ト此附近ノ惡徒トニヨリ組織セラレタルモノノ如ク考ヘラレ候得共未ダ踪跡無之候

兎モ角抵抗力ナキ農場ヲ狙フ小組強盜連ノ横行ニハ農家ハ不安ノ念ニ不堪候畢竟政府ノ紀綱弛緩シテ警察力ノ振ハザルニ原因致候

本月十七日午後二時隣郡 Mariscal ノ San Isidro Gitepec 町ニ百餘名ノ所謂 Villistas ナル者 Concordia 方面ヨリ來襲シ二十名ノ衛守兵ト交戦シ直チニ之ヲ占領シ掠奪強姦放火有ニル乱暴ヲ盡シ翌朝退却致候

（附屬書一）

（一）六月二十三日附エスキントラ在留邦人ヨリノ報告

別紙第一號ノ一

謹啓

去月二十四日附ヲ以テ當地方狀況御報告致置候間已ニ御一讀被下候事ト存候厥後依然トシテ不穩ノ氣充チ種々ノ流説相起リ不安ノ裡ニ良民ハ棲息致居候實際無理モナキ事ニテ多市ウイストラ及當停車場ニ各五六十名宛ノ兵士駐屯致居之ガ此地方全體ノ兵士ニシテ一旦數百ノ敵軍ノ來襲アランカ防禦スラ困難ノ次第ニ御座候過般“El Pueblo”ニテ“E. de Chiapas está pacificado completamente”ノ題下ニ當州首府 Tuxtla Gutierrez ヨリノ電報ヲ載セ當州知事ニ好都合ナル報告アリシガ間モナク本月五日同市ハ反徒ノ襲撃ヲ受ケ州廳ノ建物ナゾ全部焼拂ハレ申候州政府ノ公報ニ依レバ勝利ランク相見エ候得共事實ハ然ラザル由ニ御座候目下州知事ハ同市ヲ去リテ Pan American 鐵道ノ一驛 Ariaga ニ駐在致居候當州内地ノ狀況ハ通信ナク之ヲ知ルニ由ナク候得共想像スルニ餘アリ候兼テ發表セラレ居

邦人長田氏（小橋岸本合名會社ノ代表）福井氏何レモ數千「ペン」ノ損害ヲ蒙リ候同町ニハ二三年來已ニ三度許彼等同一味ノ輩來襲セシモ今回ノ如キ乱暴ハ演ゼザリシ次第ニ御座候今回ハ先ツ百名許ノ武装隊來襲シテ町ヲ占領シ次テ無武装ノ荷騾ヲ率ユル人足隊殺到シ來リ總計三百ト稱スル無頼漢掠奪ヲ逞フシ避難セザリシ婦女ハ辱メラレ男子ハ上着ズボンヲ剥ガレズボン下一ツニテ寒氣ニ慄ヘタリシトノ事ニ御座候此奪掠隊ハ本年三月十二日及十五日當エスキントラヲ來襲シ十日間モ當村管轄内ニ陣營シ悠々其根據地ニ引揚ケタル同一部隊ニ御座候當時若シ政府軍ニシテ少シク意氣地アラバ之ヲ全滅セン事易々タル事ナリシニ遂巡躊躇再ビ猛虎ヲ野ニ放チシハ重々遺憾千萬ニ御座候當時ノ狀況ハ已ニ本年四月五日附ヲ以テ御報告申上タル通りニ御座候

斯ル次第ニテ當州ニテハ最早生命財産ノ安全ナゾハ到底望ミ得ベカラザル次第ニ御座候各所徐々發達シ來リタル邦人事業モ漸次凋落シ來リ早晚引揚或ハ破産ノ運命ニ陥ルベク候誠ニ残念ノ次第ニ御座候（以下略ス）

大正六年六月二十三日

チャパス州エスキントラ 岸本植彦

代理公使 太田爲吉殿

(一) 七月八日附エスキントラ在留本邦人ヨリノ報告
別紙第一号ノ二 (当報告ハ牛尾書記生出発後授受シタルモノナルモ爲金茲ニ添付ス)

謹啓六月二十三日附ノ報告書已ニ御一覽被下候事ト存候同二十五日夜十一時頃突然八名ノ武装強盜布施農場「ハラバ」ヲ襲ヒ同氏ニ一言ヲ交ヘズ頸ヘ縄ヲカケ吊上クルコト二回一驚ヲ加ヘタル後現金貳千五百「ペソ」ヲ出スベク脅迫致候同氏ハ數日後出發歸朝ノ途ニ上ル筈ナリシヲ以テ旅費ノ用意ハアリシモ不穩ノ時節柄實際手許ニハ貳參拾「ペソ」ヨリ持合セナカリシヲ以テサル多額ノ所持金ナシト拒ミシニ更ニ吊リ上ケラレ銃ノ臺尻ニテ打タレ申候氏ノ妻リヨ女ハ之ヲ見ルニ忍ビズ實際所持金ナキヲ話シ其乱暴ナル所爲ヲ責メタルニ生意氣ナリトテ二度吊リ上ラレ申候同女ハ夫ノ窒息セルヲ見之ヲ検セシニ脉搏呼吸上死ノ恐ナク且ツ已レニ凌辱ヲ加ヘラルルノ状アルヲ見夫ニ水ヲ与フルト稱シテ其場ヲ去リ山中ニ隠レ申候強盜ハ床板マデ外ツシ金ヲ搜索セシモ見當ラザリケレバ室内ノ雜品一切ヲ持去リ候其所爲ノ慘酷ナル慄然タル許ニ御座候

ヒ來ル譯ニテモ無之候此附近ノ「メキシコ」人ノ農場ハ真ニ假屋ニテ彼等ハ村ニ家屋ヲ有シ病氣、祭禮、死亡、結婚凡テ村ニ出デ來リ多クノ場合家族ノ一部ハ村ニ住居シ衣類雜品凡テ愛ニ貯ヘ農場ノ假屋ニハ農具粗末ナル炊事道具労働服アルノミニ有之候随テ金錢ナゾヲ農場ニ貯フルモノ無之候サルニ日本人農業者ハ全然之ト趣ヲ異ニシ彼等ハ村ニ家ヲ有セズ農場ヲ定住地トシ生活上必要ナル一切ノモノヲ農場ニ具ヘ目下ノ如キ不穩ノ時節ハ特別ナレトモ平常少カラザル金額ヲモ愛ニ貯ヘ置候是レ日本人ノ數々強盜ノ難ニ罹ル所以ニ御座候今後此生活方法ヲ一變セザレバ少クトモ農場ニ金錢ヤ價值アル雜品ヲ置ク事ヲ止メザレバ引續キ災害ヲ蒙ルベシト存候夫々當業者ヘ注意致置候

前回ノ報告書ニ記載セル米人珈琲園ヲ襲ヒタル賊ノ主謀者ト Tueblo Nuevo 村役場員某ニ有之十餘日前隣村 Mapastepec ニテ支那人商店ヲ襲ヒ翌日軍隊ノ來リテ搜索ノ結果捕縛セラレタル犯罪主謀者ハ村役場員某ニ候ヒキ是レ二村ノミニ無之一般ノ空氣全然腐敗致言語道斷ノ有様ニ御座候久シク州民ノ待チモウケタル General Blas Corral 氏首府ヨリ二三百ノ兵ヲ率ヒ來着致候目下州首府ニ駐居ノ二三

十九日高田農場二十五日布施農場斯ク頻々強盜ノ襲來ニ逢フテハ「アカコヤワ」村管轄内ニアル邦人農業者特ニ妻子アルモノハ最早農場ニ住ムコト不可能ト相成申候村役場員ナゾハ強盜ノ復讐ヲ恐レテ手ヲ出サズ附近ニ駐屯スル軍隊モ賊ノ踪跡不明ト稱シテ別ニ搜索モ致サズ候別紙英國副領事ノ電報寫ノ通り搜索隊「ウィストラ」ヨリ來ル筈ナレトモ十日ヲ經テ未ダニ到來致サズ候高田、布施兩農場ヲ襲ヒタル賊ハ此附近ノモノニ相違ナシト我々自身種々探偵セシニ略目星ヲツクルヲ得ルニ至リ候間機ヲ見テ一網ニ掃蕩スベク計畫致居候

高田農場ノ附近ナル日墨會社ノ「タフーコ」農場或ハトルコ人ノ「ヌエバ、トルキア」農場ヲ襲フベク強盜連同類ヲ募集シツツアリト偵知シタレバ兩農場トモ武装致居候「タフーコ」農場ハ昨年七月十五日三十名許ノ強盜ニ襲ハレ之ヲ擊退シタル經驗有之今回モ多市ノ駐屯軍長ヨリ武装ノ許可ヲ得警戒致居候同農場ハ三四十名許ノ強盜ナラバ擊退スル用意有之候

日本人農場ノミ續テ強盜ニ襲ハレ「メキシコ」人農場ニ其事ナキハ日本人排斥テウ譯ニ無之又日本人与シ易シトテ襲

千ノ兵ヲ率ヒテ來リ一挙草賊ヲ殲ストノ大評判モ或ハ竜頭蛇尾ニ終ランカト存候

近狀御報告申上候毎度 Stevenson 氏ヲ煩スハ氣ノ毒ナレドモ我々個人トシテ保護方ヲ官憲ニ請求スルヨリハ英國副領事ノ名ヲ以テスル方幾分有効ノ様相見エ候間自然氏ヲ煩ス事ト相成申候御了承被下度候

地方官憲ノ辭令ニ巧妙ニシテ保護方ヲ請求スル場合ノ如キ大ニ同情ヲ表シ呉レ特ニ日本人ニ對シテハ厚意ヲ表スル旨縷々述べラルルモ毫モ事實上保護ヲ果タスナク誠意ノ見ルベキナキハ遺憾ニ存候 敬具

大正六年七月八日 チャパス州エスキントラ

岸本植彦

帝國代理公使

太田爲吉殿

追白

前記布施氏ハ數年前當國ヘ歸化致候(二重國籍者?)氏ハ内村鑑三氏ノ門弟ニテ無抵抗主義者ニ御座候無抵抗主義ハ文明ノ社會ニ於テハ敵者ニ反省ヲ与フル消極的平和主義ニ候得共野獸ノ如キ蛮民ニ對スル無抵抗主

義ハ畢竟彼等ノ餌トナリテ終ルノミニ御座候嘗テ氏ハ其使役セル土人中ノ某々等ガ組ヲナシテ氏ノ牛ヲ毎々盜ミ居リシヲ發見セシ時ノ如キ別ニ懲戒ノ方法ヲ講ゼズ「早晚悔ヒ改ムル時來ルベシ」ト何ゾ知ラン今回彼ヲ縊殺セントセシ連中ニ牛盜連ノ加ハリツアルノ疑アルオヤ布施夫妻ハ豫定ノ如ク去月二十九日當地出發歸朝ノ途ニ就カレ候布施氏ノミ歸朝シ妻君ハ留守居ノ筈ナリシモ強盜ノ來襲ニ逢フテ妻君モ同道歸朝セラレ候氏ノ頸ニ荒縄ノ傷ヲ印セシハ誠ニ氣ノ毒千萬ニ候ヒキ

(附屬書二)

牛尾書記生ニ對スル指示

別紙第二號

「チアパス」州「エスクイントラ」地方出張心得事項

- 一、同地方ニ於ケル邦人被害ノ情況
- 二、將來再ヒ被害ノ起ルベキ模様アリヤ
- (イ) 墨國政府軍隊及警察ノ情況
- (ロ) 叛軍ノ情況
- (ハ) 「アルヴァラド」將軍ノ征討軍出向實否
- 三、將來モ被害生ズベキ形勢アラバ在留民ヲ一旦本邦其他

發砲セシヲ以テ警備ノ政府軍(賊軍ノ襲撃ニ備フルタメ客車ノ前後ニ軍用車ヲ連結シ乗車シ居レリ、其數七拾餘名ナリキ)ハ早速汽車ノ進行ヲ止メ應戰大ニ努メ約三十分ニシテ之ヲ撃退セシメ候

其利那ニ於ケル乗客ノ驚愕一通ニ無之一同列車ノ床上ニ平伏シ婦人小兒ハ恐怖ノ餘リ號泣シ中ニハ卒倒セシモノモ有之候程ニ有之候幸ヒ「カランシスタ」ノ勇敢ナル行動ニ依リ一人ノ負傷者ヲモ出ダサザリシハ乗客一同ノ大ニ感謝シタル處ニ有之候十四日午後一時半「フチタン」(Fuchitan)驛(サン、ヘロニモ)ニ次ク驛ナリ)ニテ小橋、岸本合資會社ノ小橋燈吉及日墨協働會社員ノ出迎ヲ受ケ申候聞ケバ公使館ヨリノ電報ハ十二日午後三時ニ接受シタルニ依リ十三日朝「エスクイントラ」村ヲ發シ「サン、ヘロニモ」驛ニ小官ヲ迎フル途中ナリシ由ニ候(途中ニテ汽車脱線セシ爲メ一日遅延セシ由)

電報ヲ以テ不取敢報告致置候通り本月十五日午後三時「エスクイントラ」村へ安着致候

停車場ニハ村長、役場員始メ當地守備隊長「アポリナリオ、カステイニ」(Apolinario Castillo)中尉、岸本槌彦、

ニ引揚ケシムル方適當ナリヤ、在留民ノ意嚮ヲ聞クコト四、引揚ヲ可トセザル場合ハ別ニ彼等ニ於テ何等自衛ノ計畫アリヤ

五、如何ニセバ在留民ニ安心ヲ与フルコト出來可キヤ

六、地方官憲ニ面會シ切ニ在留民保護ヲ依頼スルコト

七、英國領事ニ面會シテ從來ノ好意ヲ謝シ竝ニ今後モ引續キ盡力セラレンコトヲ依頼スルコト

八、二乃至五ノ事項ニ關シ急ヲ要スルコトアラバ電報ニテ當方へ問合ハスコト

九、以上ノ外歸路都合ヲ見計ヒ「サリナ、クルス」港ニ立寄り同地稅關及着船場所等ニ於ケル日本人上陸取扱振ヲ取調ブルコト

(附屬書三)

七月二十六日接到ノ牛尾書記生報告

別紙第三號

拜啓陳者小官儀

本月十二日午前八時三十分「テイエラ、ブランカ」發「サント、ルクレシア」ニ相向ヒ候處同九時四十五分右方二町餘ヲ隔リタル森中ヨリ約六拾名ノ騎馬賊現ハレ列車ニ向テ

日墨協働會社代表者清野三郎等ノ出迎ヲ相受ケ申候村長「エラスモ、ペレス」(Erasmio Pérez)氏ハ外務大臣代理「ガルサ、ペレス」氏ヨリ電報アリ小官ノ出張ヲ報ゼラレ且ツ出來得ル限りノ便宜ヲ与フベシトノ命ニ接シタル趣ヲ以テ何ナリト用命スベキ旨申出デラレ候七月十六日午前十時役場ニ村長ヲ訪問シ從來在留民ガ亨ケタル厚意ヲ深謝シ同時ニ今後ノ保護方ヲ依頼致候處村長ノ曰ク當地ニハ十分ノ守備隊ナキニ付キ(停車場ニ

「カステイニ」中尉ノ率ユル約五十名ノ兵士アルモ鐵道警戒ガ重ナル任務ニシテ當村ノ警戒ハ殆ド頼ミニナラズトノコトナリ)當村ヲシテ最モ安全ナラシムル爲メ五拾名ノ精銳ナル兵士ヲ駐屯セシメラルル様若シ之レガ絶對不可能ナレバ村民ニ對シ五六拾挺ノ鐵砲ヲ貸与アレバ村民ニテ義勇兵隊ヲ組織シ蛮賊ノ襲來ヲ充分防禦スベシトテ再三再四中央政府及「タパチュラ」(Tapachula)市ニ駐在セシ「チアパス」州軍司令官へ依頼シタレドモ一向返答ナキ趣ヲ語ラレ候

而シテ目下當地方ヲ荒シ居ル賊ハ「ヴィイスタ」ト自稱スルモ實ハ現政府ニ對シ反抗スルヲ目的トセルニ非ズシテ全

ク掠奪ヲ事トスル蛮賊ニ過ギズ其數モ三四十名ヲ超ヘザレバ五十名ノ精銳ナル兵アラバ之等ヲ退治スルハ易々タル事ナリト語り予ノ中央政府ヘ爲シタル前記數度ノ稟請ハ未ダニ聞届ケラレザル有様故貴官ノ出張ヲ機トシ日本公使館ノ手ヲ經テ此際右ノ目的ヲ遂ゲラレナバ只ニ在留日本人一般ノ安全ヲ保障シ得ルノミナラズ村民一同ノ安堵スル處ナレバ大ニ盡力センコトヲ切ニ依頼致サレ候ニ付貴官御依頼ノ次第ハ我が長官ヘ可成速ニ通ジ御希望ノ達セラレンコトニ努ムベキ旨ヲ答ヘ引取り申候

同日午後在留民一同ヲ集メ被害情況ヲ聞キ取り同時ニ彼等ノ之ニ處スル意嚮ヲ質シタル處在留者ノ大多數ハ十數年來當地ニ在住シ漸ク基礎ヲ作り上ゲタル今日當地ヲ引揚ゲ他ニ移ルコトハ吾人ノ生活ニ差支フル次第ナレバ絶對絶命當地ニ住ミ得ザル事情ニ立到ラバ格別左ナキ以上目下當地ヲ荒シ居ル盜賊ノ如キハ公使館ノ手ヲ經テ可成速ニ當地方ヲ警戒スル精銳ナル兵士五十名ヲ駐屯セシメラルヲ得バ全然撲滅シ得ル充分ノ見込アル旨竝ニ右ニシテ不可能ナレバ五六拾挺ノ鐵砲ヲ墨國政府ニ於テ一時貸与サルレバ村民一同ト謀リ蛮賊ノ襲撃ニ備ヘ能フ限り自衛スル覺悟ナルヲ示

在墨府

外務書記生 牛尾正雄

臨時代理公使 太田爲吉殿

追テ今朝七時頃當村村外レヘ二十九名ノ蛮賊現ハレタルニ付キ早速守備隊ヨリ之ガ討伐ニ向ハシメタル處反テ彼等ノ爲メニ一名射殺セラレ一名重傷ヲ受ケタル趣村長ヨリ承知致候同時ニ村内ニハ今ニモ賊ノ襲來スルガ如キ流説アリ人心恟々タル有様ニテ中ニハ家財ヲ持チ山中ニ避難セシ者有之候

小官儀危険ナクバ明十九日當村發「ウイストラ」(Huixtla)ニテ當地方ノ軍司令官ニ面會シタル後「タパチュラ」(Tapachula)市ニ向フベク途中故障ナキ限り本月三十日頃着府ノ豫定ニ有之候此段申添候也

(附屬書四)

八月二日接到ノ牛尾書記生報告

別紙第四號

拜啓陳者本月二十日「ウイストラ」(Huixtla)村駐在「ソコヌスコ」(Soconusco)郡守備隊長「アルフォンソ、ソリス」(Alfonso Solis)大尉ヲ訪問在留民ノ保護ニ關シ從

シ右ニ關シ盡力方ヲ願出デ刻下引揚ノ意嚮ナキコトヲ表明致候而シテ目下何等確實ナル保障無キガ故一旦蛮賊ノ襲フ處トナレバ一時山中ニデモ避難スルノ外無シト在留民一同覺悟シ居ル有様ニ候

當村地方ニ於テ在留日本人ガ蛮賊ヨリ蒙リタル損害ハ莫大ナルモノニシテ本年三月十二日及同十五日ノ兩回彼等蛮賊侵入シ來リ家具衣類ノ殆ド全部ヲ掠奪セラレ誰一人トシテ其害ヲ被ラザルモノ無之有様ニ候

而シテ日墨協働會社及小橋、岸本商會ノ如キ當地方ニ於ケル唯一ノ商店スラ閉店ヲ餘儀ナクセラレ僅カニ店ノ一部ヲ開キテ少額ノ日用雜貨ヲ販賣セルニ過ギズ他ノ日本人ニ至リテハ己レノ所有スル農場ニ或ハ商店ニ働キツツモ不安ノ裡ニ漸ク其日ヲ送り居ル現狀ニ有之候

事情右ノ如ク引揚ハ不可能ニシテ且ツ確實ナル保護ヲ得ラレザル現狀ニテ到底安ンジテ業ニ就キ難キ在留民一同ノ狀態ニ有之候間右御承知ノ上彼等ノ希望ノ速ニ遂ゲラル様當國其筋ヘ照會方可然御取計相煩度一應事情報告旁此段及稟申候 敬具

大正六年七月十八日「エスクイントラ」出張中

來ノ厚意ヲ謝シ併セテ將來彼等ガ安ンジテ就業シ得ル様充分保護セラレンコトヲ依頼致候處

同大尉ハ予「ヘネラル、ブラス、コラル」(General Blas Corral)ノ命ヲ受ケ僅カニ二百五十名ノ部下ヲ以テ「トナラ」(Tonala)「サン、ペドロ」(San Pedro)「エスクイントラ」(Escuintla)「ウイストラ」(Huixtla)及「モトシントラ」(motocintla)等ノ諸驛ヲ守備シ且ツ列車ノ護衛ニ當ラザル可カラズ爲メニ到底停車場ヲ隔リタル地方ノ警戒ヲナシ難キニ付目下軍司令官ヘ守備ノ完全ヲ期スル爲メ増兵方ヲ請求中ナルモ未ダ何等應答ナキ次第ニテ「エスクイントラ」村ニ兵ヲ常置シ得ザルハ誠ニ遺憾トナル處ナレドモ「エスクイントラ」驛(當驛ヨリ「エスクイントラ」村迄ハ壹里半餘ノ里程ナリ)駐屯ノ我が支隊ハ出來得ル限り同地方ヲ警備シ蛮賊ノ襲來ニ充分備ヘ居ル趣ヲ語ラレ候間小官ハ「エスクイントラ」村地方ニ於テ今般實地見聞シタル事實ヲ述ベ同地方ニ於テハ日本人ノミナラズ一般村民ガ一日タリトモ安全ニ業務ヲ営ミ得ザル現狀故可成速ニ蛮賊ノ侵入ヲ防グベキ兵ノ常置方ニ盡力アランコトヲ依頼シタル處同大尉ハ御依頼ノ趣ハ直チニ軍司令官ニ電請シ希望

ニ添ハン事ニ努ムベシト答ヘラレ候

同日午後六時十分前「ソリス」大尉小官ヲ訪ヒ「エスクイ
ントラ」驛守備隊長「カステイヨ」中尉ヨリノ報告ナリト
テ次ノ電報ヲ差示シ候

「本日蛮賊ノ間者一名ヲ捕縛シ得タレバ之レヲ案内者ト
シテ部下二十名ニ命ジ其巢窟ノ討伐ニ向ハシメタル處賊
ハ「ミゲル、メサ」(Miguel Mesa)ヲ首領トスル一隊
ニシテ當地ヲ去ル西北方三百四十キロメートルノ森林中
ノ一小山家ニ隠レ居ルヲ發見シタリ依テ直ニ之ヲ攻撃シ
タルニ賊ハ其不意ニ驚キ周章狼狽 Remington 式壹挺彈
丸拾五個ヲ遺棄シテ逃亡セリ、討伐隊ハ賊ノ住居ヲ焼キ
拂ヒ一名ノ負傷者モナク無事本部ヘ引揚タリ」

以上ノ電報ヲ示シ以テ「エスクイントラ」驛駐屯守備隊ノ
決シテ守備ヲ怠リ居ルニ非ザルヲ辯解セシモ右ハ偶然ノ出
來事ニシテ此レヲ以テ充分同村地方ノ警戒ノ嚴ナルヲ證ス
ルモノニ無之候要ハ是レ前便ニモ申述ベタル通り「エスク
イントラ」村ニ約五十名ノ勇敢ニシテ且ツ精銳ナル兵士ヲ
駐屯セシムルニ有之若シ之レガ實行ヲ許サルレバ同村ハ素
ヨリ其附近ノ農場及隣村モ賊ノ襲來ノ恐レナキニ至ルハ頭

mente.

Canciller de la Legación del
Japón Masao Ushio

(右譯文)

「小官ハ「エスクイントラ」村役場及同村在留日本人一
同ト共ニ同村ハ目下安全ナル保障ナク常ニ利益ヲ損ゼラ
レ居ル現状ナルガ故是非同地ヘ分遣隊ヲ駐屯セシメラレ
ンコトヲ閣下ニ懇願ス」

而シテ「コラル」將軍ニ面會シ親シク日本人ノ「チアパス」
州ニ於ケル被害情況竝ニ現状ヲ訴ヘ適當ナル方法ヲ講ゼラ
レンコトヲ依頼スルハ千通ノ書面万本ノ電報ヨリ一層有効
ノモノト存ゼラレ候ニ付歸途「ハリスコ」(Jalisco)驛(「シ
ンタラバ市行鐵道分岐點」)ニ於テ「シンタラバ」行旅行
ノ危險ノ有無ヲ今一應確メ其ノ虞レナケレバ同地ニ向ク考
ニ有之候間右様御承知置相成度候其際ハ日墨協働會社理事
清野三郎案内者トシテ同道ノ筈ニ候清野ノ談ニヨレバ目下
降雨甚ダシキ為メ「ハリスコ」「シンタラバ」間ニ自働車
ノ便ナキモ馬上八日間位ニテ往復シ得ルトノコトニ有之候
昨二十一日午後六時「タバチュラ」市駐在英國副領事「ア

然タル處ニ有之候

左レバ此際是非當「チアパス」州駐屯軍總司令官「ヘネラ
ル、blas、コラル」ニ面會シ右ノ事情ヲ陳述セント思考
致候處同大將ノ滞在地タル「シンタラバ」(Cintalapa)ヘ
向フ途中ノ安否ヲ「ソリス」大尉始メ在留民中ニテ知ルモ
ノ無ク單ニ盜賊ノ出沒甚ダシク危險多ケレバ同地ヘノ旅行
ハ目下不可能ナラントノ意見ニ有之候ニ付「ソリス」大尉
ヘ尚ホ確實ナルコトヲ取調ベラレンコトヲ依頼シタル處同
大尉ハ早速「ハリスコ」駐屯守備隊長ヘ電報ニテ問合セ呉
レ愈々同地ヘ向フノ危險ナルヲ確メ候間不取敢左ノ如ク電
報ヲ以テ「コラル」大將ヘ依頼シタル次第ニ有之候

在「シンタラバ」「チアパス」州駐屯軍總司令官「blas、
コラル」大將宛電報

Huixtla, el 20 de julio de 1917.
Sr. Gral. Blas Corral, Jefe de las Operaciones en
el Estado, Cintalapa.

Ruego Vd. atentamente en union Ayuntamiento y
Colonia japonesa en Pueblo Escuintla, dignese en-
viar destacamento por estar constantemente ama-
gados intereses, por carecer seguridades, Atenta-

ール、オー、ステベンソン」(R. O. Stevenson)氏ニ面
會日本人ノ保護ニ關スル努力ニ対シ深く謝スルト共ニ今後
モ引續キ在留民ノ爲メニ盡サレンコトヲ依頼シタル處同副
領事ハ予ハ當地方ニ於ケル日本人ノ爲メニハ能フ限りノ便
宜ヲ計リ其利益ヲ保護スルコトニ努力スルヲ惜マザレバ必
要ノ際ハ遠慮ナク申出デラルル様日本人一般ニ告ゲラレタ
ント頗ル懇ナル挨拶ニ有之候ニ付厚ク其好意ヲ謝シ置候
當市ニ於テモ蛮賊襲來ノ噂連リナルモ未ダ其事ナク「エス
クイントラ」村地方ニ比スレバ平穩ニ有之候在留日本人ハ
十四名ニシテ重ニ日墨協働會社經營ノ「ボテイカ、ハポネ
サ」(Botica japonesa)ノ使用人ニ候

小官明二十三日午前三時半當市發歸途ニ就クベク候若シ
「シンタラバ」ニ「コラル」將軍ヲ訪ハバ着府ハ八月十日
頃ト相成ルベク候間御承知置相成度候(目下降雨甚ダシク
出水ノ爲メ汽車ノ發着一定致サズ候)

「アルヴァラド」(Alvarado)將軍ノ出征軍漸次當地方面
ニ向ヒ居ルニ付右着ノ上一齊蛮賊ノ掃蕩ヲ行フ筈ナル旨在
「ウィストラ」(ソリス)大尉ヨリ聞キ及ビ候ヘドモ其實實
確證致シ難ク候

右及御報告候 敬具

大正六年七月二十二日在「タバチュラ」市

牛尾書記生

在墨府

太田代理公使殿

(歸路ノ豫定日割表添附ハ略ス)

(附屬書五)

八月四日附エスキントラ在留本邦人ヨリノ報告

別紙第五號

肅啓

書記生牛尾氏ハ既ニ地峽方面ノ視察ヲ終ヘ歸都ノ途ニ就カ
レツツアル頃ト存候

同氏ハ當方ヨリ派遣セシ出迎人ト同道去月十五日午後三時
當停車場着翌十六日午前ハ町役場員ト在留民保護上ニ就テ
協議シ午後ハ在留民ヲ會シテ被害事情ヲ聞取り十七日ハ昨
年及今回草賊ニ襲ハレシ高田農場、タフーコ農場安竹農場
布施農場ナゾヲ巡視セラレ十八日ハ更ニ在留民ト今後ノ方
針ヲ協議セラレ夜ハ町役場員有志家ヲ陪賓トセル晚餐會ニ
臨マレ十九日當地出發ウイストラ町ニ一泊セラレ同地ニテ

此地方駐屯軍長ナル大尉 Alfonso Solis ニ面會セラレ邦人
保護上ニ就テ協議セラレ翌二十日タバチュラ市着英國副領
事 R. O. Stevenson ニ面會種々懇談セラレ候二十三日同
市出發トナラ市着 General F. Morado ニ面會シテ邦人保
護方ヲ請求セントセシモ途中汽車脱線シタル爲メ夜三時半
同市着同將軍ハ早朝出發「タバチュラ」市ニ向ヒタレバ止
ムヲ得ズ一二日後同將軍ノ「トナラ」市ノ本營歸來スルヲ
待タントセシニ將軍出發後當停車場ヲ去ル北方三十キロメ
ートル許ノ處ニテ橋梁墜落シタル爲メ汽車通行止トナリ同
將軍乗込ノ列車「マバステペック」停車場(當町ヲ距ル八
里)ニテ假工事ノ出來上ル迄一二日停留シツツアルヨリ牛
尾氏ハ二十六日同停車場マデ引返シ來リ同將軍ニ面會エス
クイントラ方面在留民保護ノ爲メ駐屯車(Guarnicion)ヲ
置カレンコトヲ懇々請求セラレ同日出發北行セラレ候同氏
去ル十九日當町出發二十六日「マバステペック」ヨリ北行
スル迄當地在留民ハ清野三郎君ヲ案内者及紹介者トシテ同
伴セシメ猶ホ官憲ニ會見セル時ハ同君ヲシテ當村ノ現状ヲ
詳説セシメ申候乍不及牛尾氏ノ視察上便宜相謀リ申候
同氏モ氏ノ力ノ及ブ限り大ニ盡力致呉レ候廿六日同將軍當

停車場ヲ通過致シ候間停車場駐屯ノ中尉ヲシテ當町長及在
留民代表者ヨリノ駐屯軍設置方出願書ヲ差出サシメシニ同
將軍ヨリ「エスキントラ」ノ事情ハ已ニ「マバステペッ
ク」ニテ日本公使館員ヨリ詳細聞取りタリ早速四十名ノ分
隊ヲ派遣シテ駐屯セシムベシトノ答弁ニ有之候(町長及小
子ハ數度停車場ニ出テ親シク將軍ニ面會セントセシモ假工
事意外ニ手間取り汽車通過時刻不明ニテ空シク引返申候)
二十九日ニ至リ當停車場ニアリシ四十二名ヨリ成ル分隊當
町ニ來リ駐屯スルコトト相成停車場ニハ新ニ四十名ノ分隊
到來致候之レニテ附近ヲ徘徊スル小組ノ草賊ハ最早襲來致
間敷一先ヅ小康ヲ得タル次第ニ御座候

久シク町役場及在留民ノ種々運動シテ成效セザリシ駐屯軍
突然ノ間ニ成功ヤシシ Morado 將軍新ニ Jefe de Opera-
ción en la Costa トシテ若干ノ兵ヲ率ヒテ來リ、バン、ア
メリカ鐵道全線附近ノ守備ニ當リ幾分兵力ノ餘裕アルニヨ
ルナランモ牛尾氏ノ運動与ツテ大ニ効アルモノニ御座候
若シ牛尾氏ノ運動ナクンバ當町ノ駐屯軍ナゾハ自然後廻シ
トセラレ可申候斯ク速ニ駐屯軍ヲ得タルハ獨リ在留民ノ幸
福ノミナラズ當町一般人民ノ幸福ニ有之大ニ嬉居候駐屯軍

ハ何分微々タル兵力ナレバ僅ニ町ノ守備ニ當ル位ニテ町以
外ニハ保護難及候草賊ハ依然森林中ニ根據地ヲ作り資力ア
ル農場主ヲ脅シテ金ヲ強請致居候四五日前當町ヨリ六七里
ヲ距ル一農場ニ住ム邦人林末一君ハ三百「ペソ」ヲ強請セ
ラレ断然之ヲ拒絕致候復讐ヲ恐レテ「タバチュラ」市ヘ家
族ト共ニ引揚申候斯ル場合ニ単ニ一身上ノ利害ヨリ打算ス
レバ強請ニ應ズル方經濟上得策ナルヲ以テ多クノ農場主ハ
隱ニ強請ニ應ジ間接ニ草賊ノ跋扈ヲ助長セシメ居候
一昨日一大佐(將軍ノ副官)來村致候間町長ヨリ事情ヲ述
ベ速ニ草賊剿絶方ヲ願ヒシニ目下ノ處兵力薄ク攻撃ノ態度
ヲ取ルコト出來ズ近々「マイコット」將軍大兵ヲ率ヒテ來
援スル筈ナレバ其節ハ兵力ヲ増シテ草賊根絶ニ取懸ルベク
其迄ハ町ノ守備ヨリ外ニ致シ方ナシト申サレ候僅々四五十
名ノ草賊サヘ掃蕩スル事出來ザル有様ニ御座候以テ一般ノ
形勢御推察被下度候

當村管轄内ニアル草賊ハ目下ノ處微々タルモノニ候得共隣
郡「リペルター」ニアル草賊ト氣脉ヲ通シ時々使者往來致
居候間輕視スル譯ニモ相成不申候同郡 Hacienda San Ni-
colas ニハ部將 Albóres 及 Macias (共ニ中佐ト稱シ居

候) 割拠致居二百弱ノ部下有之當町ヨリ四日路ニ有之候彼等得意ノ山路ヲ踰ヘ來ラバ突然當町ニ殺到シ得ル地勢ニ有之候若シ該草賊襲來セバ現在ノ駐屯兵ニテハ防禦難致候併シ敵モ駐屯軍アル處ハ可成避クル傾向有之且ツ當村ハ已ニ一度掠奪ニ罹リ商店ハ閉鎖セラレ富裕者ハ他ニ避難中ナレバ襲來スルモ獲物少ケレバ最早來襲ナカルベシト見込ラ附ケ居候

當州首府 Tuxtla Gutierrez ハ去月三十日再ヒ草賊八百ニ攻撃セラレ政府軍ハ敗北シ知事 Pablo Villanero 氏ハ負傷シ市ハ痛ク掠奪ニ逢ヒシトノ通知有之候併シ確實ナル詳報ニハ未ダ接シ不得候餘程政府方ニ都合アシキ出來事ト見ヘ全然公報無之候 San Cristobal ヤ Comitán モ不日同様ノ運命ニ陥ルベク候

當地方ノ詳況ハ牛尾氏ノ復命書ニヨリテ御承知被下度候今回氏ノ出張ハ我等在留民保護上少ナカラザル効果有之候謹テ同書記生御派遣方御禮申上候公使館員ヲ在留民所在地ヘ派遣スルノ効果ハ牛尾氏ヨリ直接報告可有之候何卒今後時々御派遣被下度願上候私ハ當地方ノミナラズ「シナロア」「ソノラ」「チワワ」「コアウイラ」諸州ヘ館員御派遣

六三二 九月五日 在墨国太田臨時代理公使ヨリ
本野外務大臣宛

在墨国埃洪国公使国書捧呈ニ関スル件

公信第二二四号 (十月十五日接受)

大正六年九月五日

在墨臨時代理公使 太田 為吉 (印)

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

千九百十四年二月以來當国ニ駐劄致居リ候埃洪国公使「フオン、カンニヤ」Kolomán Kánia von Kánya ハ本月四日大統領「カランサ」氏ニ正式ノ謁見ヲナシ同国新皇帝ノ先帝崩御通知ニ関スル親書及同公使ノ信任状ヲ捧呈(今日迄後レタルハ交通不便ノ為ナリシ由)致シ候処本日朝刊新聞ノ報スル所ヲ見ルニ右謁見ノ際埃洪国公使ノ陳ヘタル言上振ハ勿論同国皇帝ノ親書ニ於テモ「カランサ」氏ヲ呼フニ墨西哥合衆国大統領ノ称号ヲ用キ当然現政府及大統領ヲ承認シタルモノト認メラレ本年五月一日即チ大統領就任式ノ当日独逸公使カ高声ニテ独逸皇帝及人民ノ名ニ於テ祝辞ヲ述ヘタル(五月二日附機密第一五号拙信所報)事実ト併セテ中央同盟ノ當国ニ対スル態度ヲ知ルニ足ルモノト存セ

相成ラバ邦人保護上良結果ヲ挙ゲ得ベシト存候 草々不備
チアパス、エスクイントラ 岸本槌彦

大正六年八月四日

代理公使 太田爲吉殿

六三一 八月三十日 在米国佐藤大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

就任ニ関スル墨国大統領ノ親書ニ対シ米国ノ

態度未決定ナル旨國務省当局者談話ノ件

第三二六号

貴電第二七一号ニ関シ國務省当局者ノ語ル処ニ依レハ本件ニ関シテハ當国政府ニ於テ未タ何等決定シ居ラス一々大統領ノ処決ニ俟ツ次第ナルモ大統領ハ目下戰時増稅案其他本件ヨリモ一層緊急ノ問題ノ為メ多忙ヲ極メ居ルニ付其決定ハ自然後廻シトナルヘク今ノ処何時決定ヲ見ルヘキヤ確言シ難シトノ事ナリ右ハ當方ノ問合ニヨリ國務長官ヨリ大統領ニ談合シタル後昨二十八日聞得タル所ナルカ當国政府ノ態度決定次第當方ニ内報ヲ得度旨ヲ述ヘ當局ノ承諾ヲ得タリ

ラレ候ニ付為念及報告候 敬具

六三三 九月十三日 在米国佐藤大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

墨国大統領親書ニ対スル米国大統領ノ答翰報

告ノ件

第三四八号 (九月十四日接受)

貴電第二七一号往電第三六二号ニ関シ十二日更ニ國務省ニ問質シタル所八月三十一日附ヲ以テ米国大統領ヨリ「カランサ」ニ対シ答翰ヲ發シタルカ其内容ハ先方來翰ノ内容ヲ繰返シテ該書ヲ受領シタル旨ヲ述ヘ當方ニ於テモ之ニ充分「レシプロケイト」スル旨答ヘタル趣ナリ

六三四 九月二十四日 在墨国太田臨時代理公使ヨリ
本野外務大臣宛

九月一日国会開院式ニ於ケル墨国大統領ノ教

書報告ノ件

附屬書 右教書摘訳

公信第二三五号 (十一月二十日接受)

大正六年九月二十四日

在墨臨時代理公使 太田 為吉 (印)

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

大統領教書摘訳送付ノ件

本年九月一日当国々会開院式ニ臨ミ大統領「カランサ」氏
カ朗読セル去ル五月一日ヨリ八月三十一日ニ至ル行政報告
別紙摘訳ヲ以テ供貴覽候 敬具

(附屬書)

墨國大統領教書摘譯(九月一日國會開院式ニ於テ)

外交

墨國政府ノ諸外國ニ對スル親交關係ハ何等ノ障礙ナク益々
深厚トナリツツアリテ拉典亜米利加諸國トノ關係ヲ益々親
密ナラシメンカ爲メ我國代表者ヲ各國ニ任命派遣セルニ對
シ諸國モ亦我國ニ代表者ヲ送ルニ至レリ

歐洲諸國ニ於ケル我國代表者ノ異動ハ西班牙國ニ對シ新ラ
シキ公使ヲ任命シタルカ同公使ハ八月十日同國王ニ謁見接
受セラレタリ

我國ノ領事館ハ現今四十五アリテ其上ニ領事館監督官ヲ北
米及歐洲ニ各一名ツツ派遣シアリ

千九百九年八月中墨國練習艦「サラゴサ」号カ過ツテ諾威
國ノ汽船「ノース、ハイン」号ニ衝突シ損害ヲ与ヘタルニ

基キ同國公使館ヨリ損害要償ノ照會アリタルヲ以テ我國政
府ハ去ル六月中二千五百十六「ペソ」七十六仙ノ支拂ヲ承
諾セリ

本年四月二十六日ヲ以テ我カ外務次官及日本國代表者間ニ
醫師、藥劑師、齒科醫、產婆及獸醫ノ自由開業ニ關スル相
互承認ノ協定ニ調印セリ而シテ我上院ハ既ニ之ヲ承認シ適
法ニ公布セラレタリ

本年六月七日「サルヴアドル」國首府及附近ニ起リシ震災
ニ對シ我國政府ハ直チニ深厚ナル同情ヲ表シ下院ノ決議ヲ
經テ三萬「ペソ」ヲ救恤金トシテ送付セリ

去ル六月中華盛頓駐在我國大使ニ命シ曩ニ米國カ墨國ニ對
スル武器輸出禁止ノ結果同國境ニ於テ抑留サレタル二百七
十三萬三千發ノ彈藥返還方ヲ交渉セシメタル處米國政府ハ
我國ノ要求ニ應ジ駐墨同國大使ニ命シ其引渡方法ニ就キ我
政府ト協議セシメタリ

去一月中革命ニヨリ成立セル「コスタ、リカ」國政府ニ對
シ我國ノ承認ヲ与ヘタリ

本年二月十一日我政府ハ中立諸國ノ政府ニ對シ現戰乱ノ慘
害ヲ可成減少シ戰役ヲ終熄セシムルコトニ努力センコトヲ

勸誘シタルカ亜尔然丁國政府ハ之ニ對シ「ブエノス、アイ

レス」市ニ拉典亜米利加諸國ノ會議ヲ開催シ右目的ヲ遂行
センコトヲ提議セルヲ以テ我政府ハ欣ンテ承諾ノ意ヲ表シ

タル處右提議ハ大體ニ於テ伯刺西尔、智利、烏尔貝、秘
露、古倫比亞、「エクワドル」、「グワテマラ」、「サン、サ

ルヴアドル」、「ホンデユラス」、「ニカラグワ」、「コスタリ
カ」及「ハイティ」ノ贊スル所トナレリト雖尚ホ諸國間ニ

意見ノ一致セサル點アリシヲ以テ亞國大統領ハ該會議ヲ無
期延期スル旨宣言セリ、右ニ拘ラス我國政府ハ決シテ失望

スルモノニ非ラス機會タニアラハ此崇高ナル目的ノ為メ全
力ヲ傾注スヘクカカル機會ノ到來スル迄ハ從來ト同シク嚴

正中立ヲ守リテ渝ラサルヘシ

財政

墨金貨貳千萬「ペソ」ヲ米國費府造幣所ニ於テ鑄造スヘキ
契約ハ履行セラレス其後種々ノ個人及商社ヨリ銀貨及銅貨
ノ鑄造ヲ出願セシモ政府ハ之ヲ許可セサリキ

我造幣局ニ對シ鑄物ノ輸出ヲ願出テタルモノ左ノ如シ

銀 鑄 五五、五六九基

金 鑄 四八三〃

此價額合計 二、九二三、五九七「ペソ」七一

以上ノ輸出額ハ鑄物分析局及稅關ヲ經タルモノヲ含マサル
コト勿論ナリトス

本年五月一日ヨリ八月十五日迄我造幣局ニ於テ鑄造セシ貨
幣左ノ如シ

金 貨 一、三六五、〇〇〇個

此價額 一四、〇三五、〇〇〇「ペソ」

銀 貨 一五、二〇〇、〇〇〇〃

七、六〇〇、〇〇〇〃

右ノ中六月中ノ鑄造高七、七〇〇、〇〇〇「ペソ」七月中
ノ高七、六〇〇、〇〇〇「ペソ」ニシテ我國造幣局ノ有ス
ル最高記録ヲ示セリ

舊新幣ノ發行ニ對シ財務委員ノ保管セル準備金ハ五三、八
四六、四九五「ペソ」六五ニシテ内金貨證券ヲ以テ拂戻シ
タル高四〇、二五三、四九一「ペソ」七六殘額一三、五
九三、〇〇三弗^ペ八九ナリ

財務委員及政府ニ於テ燒却シタル旧紙幣ハ五四七、四七一、
九六〇弗^ペ六ニ達シタルカ之ハ市場ニ流通セルモノノ内ヨ
リ引上ケタルモノニシテ其他印刷局ヨリ大藏省ニ廻送サレ

一四 「メキシコ」革命動乱關係一件 六三四

末タ市場ニ出テサリシモノ四八、六五八、三五五弗モ同シク焼却セリ
 新札ノ焼却セシモノ二〇、一一〇、六六九弗四五ニシテ現ニ財務委員ノ手ニアリテ漸次焼却スヘキモノ二九、七六二、四八四弗六ニアリ
 千九百十六年三月八日大蔵省令ニヨル旧銀行紙幣ノ焼却高左ノ如シ

Banco de Morelos	九四、一三〇弗
” Oriental Puebla	一一、八二〇”
” de Aguascalientes	三六九、〇八五”
” Jalisco	二、〇四五、四六八”
” Minero de Chihuahua	一、六一一、三〇〇”
合計	四、二三一、八〇三”

本年五月一日ヨリ八月十五日迄ニ許可シタル軍人恩給ハ一日六百七十八弗六仙ニ上ル之ニ同期間以前ニ許可シタルモノヲ加算スル時ハ一日八千六百七十三弗四十六仙ニ達ス
 銀行監査委員ノ作成シタル統計ニヨレハ一時共和國ニ存在セシ發行銀行廿二ノ本年八月十五日ニ於ケル状態左ノ如シ
 硬貨準備金 四一、六二八、一二一弗七〇

七三二

流通紙幣	一八三、二〇一、四六三”二五
當座預金	一八、三一五、四一二”七八
定期預金	三二、六九八、六八六”一四
去ル七月十四日現在各銀行ノ保管金額左ノ如シ	
米貨（一对二ノ割）	三、六一九、五三四弗三二
墨貨	二、二九七、八四〇”〇〇
銀貨（一弗）	一三、一〇二、八六九”〇〇
補助貨	七二一、〇二三”五七
金銀塊	四、八一八、四五九”七六
合計	二四、五五九、七二六”六五

本年四月十五日ノ大統領令ヲ以テ「アルコール」同上性飲料ノ賣價ニ対シ四割並ニ内國製麦酒ノ賣價ニ対シ一割六分ノ課税ヲ規定シ同時ニ外國製麦酒ニ対シ輸入税ノ四割ヲ附課スルコトセリ
 本年四月十三日ノ法律ニヨリ規定シタル内國産石油ニ対スル課税ハ五月一日ヨリ實施セルカ五、六兩月中ノ収税高一、三七四、五四一弗四一仙ニ達セリ又五月十九日ノ大統領令ヲ以テ煙草税ヲ従前ノ倍額ニ引上ケ六月五日ノ大統領令ヲ以テ電話特別税、壘税及廣告税ヲ設定セリ

本年六月九日國税ニ関スル千九百十六年六月一日ノ法律ヲ改正シ第二四九條、第二五〇條及第二五一條ノ税率ヲ増加シテ三割七分乃至六割トナシ又千九百十六年六月一日ノ印紙税法第三〇條、第四四條及第一一二條即船荷證書及鐵道、電車、馬車運賃等ニ対スル税率ヲ改正セリ

電燈消費高ニ対シ一割電力ノ使用ニ対シ三分「ブルケ」酒ノ卸値段ニ対シ二割五分ノ税金ヲ設定シ千八百九十三年十一月十七日ノ法律ヲ復活シ同法施行細則第二十二條ニ依リ賣買税五分ヲ買方ニ於テ負擔セシムルコトセリ

「ガスリン」油及精製石油税ヲ従價三分ニ原油税ヲ従價六分ニ改正セリ

七月十九日全國ニ対シ特別印紙税ヲ設ケ千九百四年八月二十三日ノ法律ニ準據シテ設立シタル私立慈善會ノ支配スル資本金ニ対シ千分ノ五ヲ賦課スルコトセリ
 五月一日ヨリ八月十五日迄ニ支出セル經費ハ二二、五〇〇、〇〇〇弗ニ上リ一日平均三一七、〇〇〇弗トナル
 大蔵省ノ調査ニヨル正貨ノ現存高左ノ如シ

五月一日	五、五八三、七二二弗五五
六月一日	五、八一七”六五

一四 「メキシコ」革命動乱關係一件 六三四

七月一日	六、五八五、九二二”二一
八月一日	八、三二一、〇二八”五一

内政

國家革新ノ時期ニ於テ常ニ現ハルヘキ如ク我國ニ於ケル地方選挙ハ實ニ激甚ナルモノアリキ然レトモ行政部ハ常ニ法ヲ超エス選挙者ニ対シ敢テ不法ノ制肘ヲ加ヘサリシヲ以テ大部分ノ地方人民ハ選挙ノ絶對的自由ヲ享有シタリキ而シテ或地方例ヘハ「チワワ」「タマウリパス」「ナヤリット」「ツラスカラ」「モレロス」「オアハカ」「タバスコ」「チャパス」及「ユカタン」等ニ於テ人心ノ亢奮頂點ニ達シ選挙運動ヲ危険ナル程度ニ達セシメ如何ナル暴行ノ起ランモ計ラレサル程ナリキ故ニ此等ノ州ニ於テハ選挙ヲ延期スルノ餘儀ナキニ至レリ又「コアウリラ」州ニ於テハ未タ當選知事以下ノ就任ヲ見ルニ至ラス右等諸州ヲ除キ共和国三分ノ二ハ知事ノ就任、地方議會ノ成立、司法權ノ行使等悉ク憲政治下ニ入ルニ至レリ而シテ以上列挙セル諸州ニテハ假知事ヲシテ行政ヲ司ラシムト雖漸次秩序ノ回復ヲ待チ選挙ヲ行ハシムル筈ナリ

「シナロア」州ニ於ケル知事選挙ノ結果「ヘネラル、ラモ

七三三

ン、イツルビデ」當選シタルモ同州ニ於ケル數ケノ市會ハ州議會ノ其當選宣告ヲ憲法違反トシ之ヲ承認セサリシヲ以テ「アルヴァロ、オブレゴン」將軍ハ其間ニ調停ヲ試ミ一危機ニ瀕セシ同州ノ紛議モ事ナク止メリ

米國ニ於テ兵役ニ徵セラルル虞レアルヨリ續々歸墨セル我國人今日迄ニ一萬人以上トナリ尚多數ハ國境ニ向テ引揚ケツツアリ之等ノ窮乏セル人民ヲ救助シ内地ニ於テ職業ヲ与フル爲メ政府ハ無賃鐵道乗車券ヲ發給セリ

共和國內ニ於テ穀物ノ不足ヲ豫防スル爲メ政府ハ令ヲ發シ播種ヲ奨励シ若シ土地所有者ノ之ニ應セサル時ハ其地方人民中ノ有志者ヲシテ之ヲ爲サシメ收穫物ハ地方ノ慣習ニヨリ地主ニ配分セシムルコトトセリ

労働者募集人ノ甘言ニ乘リ米國ニ移入スル墨國人カ當初ノ契約不履行ノ爲メ困難ニ陥ルコトヲ防カン爲メ政府ハ必要ナル保護ノ方法ヲ講シタリ

「カナネア、コンソリデーテッド、カツパー、カムパニ」ハ鑛業稅支拂ヲ肯セス去ル七月中事業ヲ中止シ六千人以上ノ労働者ヲ解雇セルヲ以テ政府ハ之等ノ無職労働者ヲ各地ニ送り就働セシメタリ尚多數ケ所ニ於テ労働者カ賃金

値上ノ要求ヲナシ同盟罷業ヲ企テタリシト雖地方官憲ノ幹旋ニヨリ平和ニ終局セリ

軍務

陸海軍省關係ニ就キ一言スヘキハ火藥製造機ヲ日本ヨリ買入レタルコトニテ之レカ据付モ略終了シタレハ近キ中運轉ヲ見ルヘシ

共和國ノ或部分ニハ尚ホ多少ノ叛賊殘留シ居ルヲ以テ政府ハ漸次之ヲ討伐シツツアリ而シテ「チワワ」州ノ如キハ殆ント平定シ「ユカタン」「カムペチェ」「タバスコ」及「チャパス」州ニ於ケル軍事的活動モ今ヤ正ニ開始セラレツツアレハ之等地方ノ平定ヲ見ルモ近キニアルヘシ從來之等ノ地方ハ地勢上一揆ヲ起スニ容易ニシテ且南隣「グワテマラ」國ハ敗殘ノ遁竄者ヲ收容スルニ好箇ノ地ナレハ政府ハ之等ニ対スル豫防策ヲ講シツツアリ

石油產地タル「ヴェラクルス」「サン、ルイス、ポトレー」及「タマウリパス」州ニ於テモ尚ホ多少ノ草賊アリテ石油會社等ヨリ保護ヲ受ケ居ルト雖政府討伐軍ハ着々効ヲ奏シツツアリ

勸業

地位ヲ根本的ニ變更シタルモノナルヲ以テ行政部ハ四月二十六日付ノ回狀ヲ以テ各石油業者ニ対シ石油法制定ニ關スル各自ノ意見ヲ上申スヘキヲ命セル外委員ヲ「タムピコ」ニ派シ實地視察ヲ遂ケ親シク當業者ト會見シテ其意見ヲ聴取セシメタリ

政府ハ又其後十六ヶ所ノ石油井開鑿ヲ許可セルカ大部分ハ「タムピコ」港附近ニシテ、會社ノ増設ハ五ヶ現在ノ會社數八百三十四ナリ

六三五 九月二十七日 在墨國太田臨時代理公使ヨリ
本野外務大臣宛

米伊兩國ノ墨國政府承認及英仏兩國ノ態度ニ

付報告ノ件

附屬書 新聞掲載ノ墨國大統領就任通知ニ対スル米國大統領親書と訳文

機密公信第二六号 (十一月二十日接受)

大正六年九月二十七日

在墨臨時代理公使 太田 為吉(印)

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

墨國政府ニ対スル米伊ノ承認行為ニ關スル件

墨国財政狀況其他ノ点ヨリ近来米墨間接近ノ度ヲ増シ米国政府カ墨国政府ニ対シ所謂最終承認ヲ与フルニ至ルヘキ傾向ノ存在セルコト從テ帝國政府カ該問題ニ付貴電第一六号第二項ノ主義ヲ執ラルル以上「カランサ」氏ノ親書ニ対スル回答ニ付テハ先以テ米国政府ニ御打合ノ上正式挨拶ヲ発セラルル様取計ハルルコト適當カト存スル旨客月廿三日拙電第六九号ヲ以テ及復答置候処其後右ノ觀測ハ愈々事實トシテ見ハレ本月十二日華盛頓發連合通信社新聞電報ハ拙電第七一号ノ通り米国大統領ハ「カランサ」大統領就任ノ通知ニ対スル応答ノ親書ヲ發シタル旨ヲ報シタル為メ曩ニ拙電第六一号所報ノ在當地伊国公使ハ甚タシク狼狽シタルモノノ如ク即日米国大使「フレッチャー」氏ヲ訪問シ右米国大統領親書發送ノ実否ヲ問合セタル処同大使ハ未タ本国政府ヨリ何等通知ニ接セサルモ或ハ事實ナラント答ヘタル為メ今更ノ如ク驚キ早速当国々務省ニ向テ本国政府ヨリ信任狀ノ到着シタル旨ヲ通知シ其捧呈ニ関スル打合セヲ為シ拙電第七三号及同七四号所報ノ通り「昨廿五日即チ米国大使ノ「ウキルソン」大統領親書捧呈ニ先ツ一日前漸ク之ヲ済マシタル次第ナルカ当国政府ハ右伊国公使ノ態度ニ対シ内

心大ニ不満足ヲ感シ國務省官吏ノ如キハ往々ニシテ之ヲ舉動ニ示シ居ルト共ニ當地外交官仲間ニ於テモ其不手際ヲ笑フモノアリ仏国公使ノ如キハ元來信任狀ヲ捧呈セシメズンテ公使ヲ送ル政府ノ意ハ甚タ了解ニ苦シム所ナリト云ヒ且ツ嘗テ「カランサ」氏大統領就任ノ際ニ於ケル在米仏大使ノ否認態度ニ関スル注意（本年五月二日附機密第一五号拙信ニ記載セル佐藤大使來電第二二号ノ事實ニ適合ス）ノ如キ實際上其ノ意ヲ体シテ行動スルハ至難ノコトニシテ當地ニ於ケル外交官ノ立場ヲ悟ラサルモノト云ハサルヲ得スト本官ニ私語シ仏国政府トシテハ何等最終承認ト云フカ如キ問題ニ触ルルコトナク此俟ニ放置シ当初ヨリ既ニ承認セルモノナリトノ風ヲ装フコトノ適當ナルヲ信シ居ルモノノ如クニモ想像セシメ候事情右ノ如クナルヲ以テ当国政府ニ対スル最終承認問題ハ今回ノ米国大統領親書及伊国公使ノ信任狀捧呈ニヨリ大勢ハ既ニ決シ協商側ニ於テ英、仏並ニ我國カ未済ノ部類ニ属シ英國ノ如キハ賠償問題等ノ關係上或ハ諸国ト離レテ特ニ現態ヲ維持スルヤ不計モ仏国ノ如キハ前述ノ事情モアリ且ツ尚ホ今日ト成リテハ承認ヲ餌ニ賠償問題ニ対スル満足ヲ

得ントスルモ墨国政府ニ於テ之ニ応スヘキ見込ナシトハ同国公使ノ最近本官ニ内話セシ所ナルカ故ニ之ニ依テ察スルモ仏国ハ必スシモ英國ト其行動ヲ一ニセサルヘキカト考慮セラルル次第ニ候間帝國政府ニ於テモ此上「カランサ」氏親書ニ対スル正式応答其他承認ニ関スル行動ヲ差控ヘラルル必要無之ヤニ被存候

タル貴國ノ福祉ヲ祈リ併セテ閣下及閣下一族ノ康寧ヲ希フ
ワシントン千九百十七年
ダブリュー、ウキルソン

尚米国大統領親書發送ニ関シテハ在米大使往電第一九二号末段ノ行掛リモアリ勿論米国政府ヨリ我ニ対シ何等通知アリタルコトト存候得共為念當地ニ於テ公表セラレタル該親書（西譯文）新聞切抜^{（註）}為御参考供貴覽候 敬具

六三六 十月三日 在墨国太田臨時代理公使ヨリ
本野外務大臣宛
墨国大統領ノ親書ニ対シ白国皇帝ノ親書捧呈ノ件

（本信写送付先 在米大使）
註 新聞切抜ハ省略シ和訳文ノミ採録

公信第二五二号 （十一月八日接受）
大正六年十月三日 在墨臨時代理公使 太田 為吉（印）
外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿
カランサ大統領就任ノ通知ニ対スル白耳義皇帝ノ親書捧呈ニ関スル件

（附屬書）

和譯文 「エル、プエブロ」新聞（九月二十七日）
米國大統領親書

良友墨西哥大統領「ドン、ヴェヌチアノ、カランサ」閣下ニ白ス余ハ今回閣下カ貴國最高ノ重職ニ就カレタルコトヲ報セラルル本年五月一日附貴輪ヲ領セリ
余ハ誠實ニ此事件ヲ欣ブト共ニ今ヤ閣下ノ施政ニ委ネラレ

「カランサ」大統領就任ノ通知ニ対シ米国大統領ウキルソン氏カ正式ニ挨拶ヲナシタルコトハ前日所報ノ通りニ有之候処昨二日在當地白耳義国代理公使ハ別紙新聞記事ノ如ク当国大統領ニ謁見シ本年八月二十日附同国皇帝ノ親書ヲ捧呈致シ候間為念右及報告候 敬具
追テ今日迄ニ墨国ニ対シ正式ノ挨拶ヲナセル諸国ハ米

国、玖馬、グワテマラ、亜尔然丁、智利、埃洪国、サル
ヴァドル、白耳義ニ有之候為念申添候也

註 別紙省略

六三七 十月四日 在英國珍田大使ヨリ
本野外務大臣宛

白国カランサ政府ヲ承認シタル旨英國外務省
当局ヨリ内報ノ件

附記 「墨国政府承認ニ関スル諸国ノ態度」

政機密公第三六号 (十二月十日接受)

大正六年十月四日

在英

特命全權大使子爵 珍田 捨己(印)

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

本件ニ関シテハ昨三日拙電第三八七号ヲ以テ報告致置候処
在墨白国臨時代理公使ハ本国政府ノ訓令ニ依リ「カランザ」
政府ヲ承認スル旨客月廿八日同政府ニ声明シタル旨英國外
務省米國部長 Mr. Sperling ヨリ吉田書記官ニ内話シタル
趣ニ有之候此段報告申進候 敬具

(附記)

墨国政府承認ニ関スル諸国ノ態度

(一九一七年十二月二十一日)

外務省政務局第二課調)

墨国現大統領「カランザ」ハ一九一七年五月一日附ヲ以テ
其就任通牒ノ親書ヲ諸国元首ニ送付シタル為、是ヨリ先キ
一九一六年十月末ヨリ十二月ニ亘リ同氏ノ事実上政府ヲ承
認シタル諸国ハ又更ニ墨国該政府ノ正式承認ニ関スル問題
ニ逢着シタルカ右ニ関スル諸国ノ態度左ノ如シ
伊国 在墨伊国公使ハ米國大統領カ「カランザ」大統領ノ
親書ニ対スル応答ノ親書ヲ發シタル旨聞知シタルヨリ急遽
一九一七年九月廿五日信任状ヲ捧呈シタリ
米国 在墨米國大使ハ八月三十一日附米國大統領ノ親書ヲ
九月廿六日墨國大統領ニ捧呈シタリ右ニ関シ米國國務長官
ハ英國大使ニ対シ該親書ハ正式承認ヲ意味スルモノニ非ザ
ルコトヲ説明セリ
英國及仏国 仏国政府ハ英國政府ト協議ノ上「カランザ」
大統領ノ当選ヲ通り一遍ニ祝スル「ポアンカレー」大統領
ノ書翰ヲ在墨仏國公使ヲシテ墨國外務省ヘ送付セシメント
スル意向ニシテ(在本邦仏國大使ヨリ本野外務大臣ニ宛テ

臨時代理公使 太田 為吉(印)

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

曩ニ「チアパス」州方面ヘ出張セシ牛尾書記生ノ提出ニ拘
ハル日本人被害状況取調報告書茲ニ及御送附候間御査閱相
成度候 敬具

追テ該報告中「サリナ、クルス」港ニ関スルモノハ我渡
墨移民及東洋汽船ノ乗客取扱ニ付キ特ニ注意ヲ要スヘキ
モノアリト被存候

(附屬書)

「チアパス」州地方ニ於ケル日本人被害状況

取調報告書

目次

第一 「ソコヌスコ」郡「エスキントラ」村地方ニ於ケ
ル日本人被害状況

第二 「ヴェラクルス」州「オハケニア」耕地及ビ附近ニ
於ケル日本人被害状況

第三 「オハカ」州「サリナ、クルス」港ニ於ケル日本人
ノ上陸状況

第四 附録

タル十一月廿六日附覽書) 既ニ該書翰ヲ華盛頓迄送付シタ
ルモノノ如ク英國モ同様ニ「カランザ」承認書ヲ華盛頓ニ
送付シ何分ノ訓令アル迄墨国ヘ發送方差控ヘシメツツアリ
日本 帝國ハ一九一七年五月一日附「カランザ」大統領ノ
親書ヲ受領セル後暫ク何等ノ措置ニ出ヅルヲ見合ハセ居タ
ルガ米國大統領ノ同大統領宛返翰並伊國公使ノ信任状捧呈
等ニ鑑ミ十一月二日附ヲ以テ御親翰ヲ發送シ十二月十八日
在墨帝國代理公使ハ之ヲ墨國大統領ニ捧呈セリ然レトモ該
御親翰ハ「カランザ」大統領ノ親書受領ノ挨拶及就任ノ祝
辭ニ止マリ帝國政府ハ未タ墨國政府ヲ正式ニ承認シタルモ
ノニ非ズ

六三八 十月三十日 在墨國太田臨時代理公使ヨリ
本野外務大臣宛

墨国チアパス州地方ニ於ケル日本人被害状況

調査報告ノ件

附屬書 牛尾書記生提出ノ右報告書

公信第三〇三号 (大正七年一月四日接受)

大正六年十月三十日

在墨

一四 「メキシコ」革命動乱關係一件 六三八

第一 「ソコマスコ」郡「エスクイントラ」村地方
ニ於ケル日本人被害状況
一、「エスクイントラ」村及其附近

當村及附近ニ在留スル日本人ハ總數五拾餘名ニシテ小商業及農業ニ従事セルモノナリ、此等在留民ハ十數年前ヨリ當地ニ居住シ今日漸ク相當ノ基礎ヲ築キ上ゲタルモノナルガ昨大正五年七月ノ候當地方ニ於ケル官賊軍交戦ノ初少ナカラザル損害ヲ蒙リタルヲ始メトシ本年三月十二日及同十五日ノ兩日「ヴキリスタ」(Vilista) ナリト自稱スル「サルヴァドル・メンデス」(Salvador Mendez) 大佐及「イア・アス・アルボレンス」(Iais Albores) 中佐ヲ首領トスル蛮賊ノ襲撃ヲ受ケシ以來一日トシテ寧日ナキ有様ナリキ當「チアパス」州ニハ「シンタラパ」町(Cintalapa) 出身ノ「チルソ・カスタニョン」(Tirso Castañón) ヲ首領トセル叛徒アリテ久シク「カランサ」政府ニ反抗シ中央政府諸郡ハ彼等ノ横行スル所トナリ首府「ツーストラ、グティエンス」(Tuxtla Gutierrez) 及旧首府「サン、クリストバル」(San Cristobal) ノ外ハ彼等ヨリ一度若クハ數度來襲セラレザルナキ有様トナリ「コミタン」(Comitan) 市ノ

如キハ目下政府軍ノ手ニ歸シ居ルモ永ラク叛徒ノ占領シ居リタルモノナリ、「リベルター」郡(Libertad) ハ彼等ノ勢力範圍ニ屬シ隣郡「マリスカル」(Mariscal) ハ再三再四彼等ノ來襲ヲ蒙リタリ「パン、アメリカン」鐵道ノ通過スル「トナラ」郡(Tonala) ハ本年四月頃ヨリ時々彼等ニ侵入セラレ鐵道沿線ノ「アリアガ」(Ariaga)「トナラ」(Tonalá)「ピヒエパン」(Pijijapan) 及「マヌステペック」(Mapastepec) ノ諸町ハ數度ノ掠奪ニ遭ヒタリ、此等ノ諸町ハ反徒ノ活動スル隣郡「ツーストラ」郡(Tuxtla Gutierrez)「チアパ」郡(Chiapa) 及「リベルター」郡ヨリ彼等ガ「シエラ・マドレ」(Sierra Madre) 山脈ノ峻坂ヲ越ヘ住民ナキ山路ヲ經テ降り來ル便アルガ爲ニシテ「ソコマスコ」(Soconusco) 郡ハ彼等ノ根據地ヨリ遠ザカリ居リ若シ玆ニ來襲センカ途上住民多ケレバ到着前豫報セラルル恐れアリ且ツ當郡ノ首都「タパチュラ」(Tapachula) 市ニハ比較的多數ノ軍隊アリ又鐵道ニ依レバ二時間内ニハ郡内何レノ地點ニモ到達シ得ルガ爲メ今日迄叛徒ノ來襲ヲ免レ居リタルモノナリ、且ツ數ヶ月以前ヨリ官軍ハ「マリスカル」、「リベルター」及「コミタン」ノ諸郡ニ駐屯シ叛

徒ノ討伐ニ従事シ居リタル爲メ「エスクイントラ」村地方ノ住民ハ大ニ安堵シ叛徒ノ襲來ナゾ全然豫想セザリシニ意外ニモ叛徒中「コンコルディア」町(Concordia) ニ根據シ主トシテ「リベルター」及「モトシントラ」(Motcintia) ノ兩郡ニ活動セル自稱陸軍大佐「サルヴァドル・メンデス」及陸軍中佐「イア・アス・アルボレンス」ノ率ユル、賊徒總勢百餘名ハ騎馬ニテ「リベルター」郡ヨリ「エスクイントラ」村ニ入り得ル三路中最モ峻嶮ナル山路ヲ選ビ途上散在スル農家ノ土人ヲ威嚇或ハ捕縛シテ官憲ヘノ通告ヲ遮リ三月十二日拂曉突然「エスクイントラ」村ヘ侵入セリ當村ニハ六名ノ巡查ノ外歩兵十三名ヨリ成ル守備隊アリシモ衆寡抵抗シ得ベキニ非ラザレバ附近ノ一農場ニ馳セ最寄ノ停車場駅長ニ電話ニテ其急ヲ告ゲ「タパチュラ」市駐屯ノ軍司令官ヘ右來襲ノ次第ヲ電報セリ

賊徒ノ一度「エスクイントラ」村ニ侵入スルヤ直チニ電話線、電信線ヲ切斷シ寺院ノ鐘ヲ乱打シ獄舎ノ戸ヲ破壊シテ囚徒ヲ釋放シ村役場ニ闖入セリ

之レヨリ先キ當地方ニ駐屯セシ官軍司令官ハ再三再四人民ノ武器ヲ沒收シ時ニハ許可ヲ得テ携帯シ居ル者ヨリモ一時

貸与セヨトカ或ハ前任司令官ノ許可ハ無効ナリナゾ稱シテ内外人ノ區別ナク一切ノ武器ヲ沒收シタレバ良民ノ手ニハ武器ナク防禦ノ方策ナカリシヲ以テ全然彼等賊徒ノ爲スガ僣ニ放任スルヲ餘儀ナクセラレタリ而シテ賊徒ノ首領ハ商人等ニ開店ヲ迫リタレバ午前七時ヨリ何レモ店ノ戸ヲ開キタル処其ノ部下ノ兵士等ハ我勝チニ各商店ニ乱入シ商品ヲ強奪シ始メタリ此ノ暴挙ニ驚ケル各店主ハ司令部ニ首領ヲ訪ヒ「當村ハ已ニ貴軍ノ占領ニ歸シタルコトナレバ金錢物品ノ徵收ハ貴下ノ命令ノ僣ナリ、但シ兵士各自ガ無法ニモ各商店ニ侵入シテ金品ヲ強奪スルハ甚ダ穩當ヲ缺クノミナラズ其ノ混雜ニ紛レテ無賴漢等ノ竊盜ヲナス恐れアレバ金品ハ一應司令部ニ徵收シ然ル後各兵士ニ分与セラレタシ」ト願出デタル結果、兵士等ノ暴挙ナキニ至リタルモ監督不充分ナル商店及避難ノ爲メ一時他ニ移リ閉鎖セル人家ニテハ其家具類ノ殆ド全部ヲ掠奪セラレタリ

同午前十一時彼等ハ附近ノ牧場ヨリ百五拾頭餘ノ騾馬ヲ掠シ來リ突然各商店ニ乱入シ主人、店員ノ請ヲ退ケ商品ノ掠奪ヲ始メタリ、彼等ハ携帯ニ過グル程商品ヲ掠奪シ其ノ運搬ニ不便ヲ感ジタルタメ必要ナルモノヲ除ク外往來ノ貧民

共ニ之ヲ與ヘツツ逃去リタリ、兵士等ノ掠奪セシモノハ第一金子、轡、「ゲートル」、毛布、「ズボン」、「シャツ」、靴、帽子及時計ノ如キ彼等自カラ使用スルモノ次ハ反物類小間物類中容積、重量ノ大ナラズシテ高價ナルモノヲ選ビ金物類、食料品及機械類ナゾハ一切ヲ触レザリキ而シテ賊徒ハ獲物ヲ前記騾馬ニ積ミ同日午後二時半頃悠々ト「マパステベック」方面ヘ逸走シタリ

同日午後六時「エスクイントラ」村ヲ去ル南方三十五「キロメートル」「ウイストラ」町(Huixtla)ニ駐在スル「アルフォンソ、ソリス」(Alfonso Solis)大尉ハ兵百三十名ヲ率ヒテ應援ニ來リタルモ敵ノ將校人名、兵數、武器ノ種類、彈丸ノ多寡退却時間ナゾヲ取調べタル上十三名ヨリ成ル枝隊ヲ停車場ニ残シ置キ敵ヲ追撃スト稱シテ却て彼等賊徒ノ逃ゲ去リタル方向ニ反對シテ己レノ本部「ウイストラ」町ヘ引キ上ゲタリ、賊徒ハ一旦「エスクイントラ」村ヲ荒シタル後附近ノ村落ヲ徘徊シツツ強盜ヲナシ居リタル爲メ當村村長及ビ軍憲ハ再來襲ヲ豫期シテ之レニ備フベキ準備中同十五日早朝ニ至リ賊徒ハ又々「エスクイントラ」停車場「エスクイントラ」村ヨリ西方約七「キロメートル」

シク「マパステベック」方面ニ逸セシメタリ

右兩國ノ襲撃ニテ在留日本人中身ニ危害ヲ蒙リタルモノナカリシモ金品ニ於テ大損害ヲ受ケ日墨協働會社(理事宮城縣人照井亮次郎)ニテ墨貨二萬「ペソ」小橋岸本合名會社(静岡縣人小橋澄吉、福岡縣人岸本槌彦兩名ニテ經營セルモノ)ニテ墨貨約一萬八千「ペソ」ノ損害ヲ負ヒタルヲ最トシ附近ノ農業者及小商人等ハ所持金衣類、家具ヲ掠奪セラレ誰一人トシテ其害ヲ免レタルモノナキ有様ナリ之レガ爲メ當村ニ於テ尤モ手廣ク雜貨ノ販賣ニ從事シ居リタル前記日墨協働會社及小橋、岸本合名會社ニテハ閉店ヲ餘儀ナクセラレ目下単ニ店ノ一部ヲ開キテ僅ノ日用品ヲ商ヘルニ過ギザルナリ

此ノ被害以來州政府ニ於テハ「エスクイントラ」停車場ニ「アポリナリオ、カステイロ」(Apolinario Castillo)中尉ノ指揮スル五十名ノ歩兵守備枝隊ヲ配置スルコトトナリタルモコハ鐵道沿線警戒ガ重ナル任務ニシテ充分村落ノ守備ニ任ジ難ク住民ノ不安ハ依然渝ルコトナカリキ

六月十七日午後二時隣郡「マリスカル」ノ「サン、イシドロ、ベルテベック」(San Isidro Gilepec)村ハ百餘名

ニ在リ)ニ現ハレ機關用重油「タンク」ノ栓ヲ抜キテ之ヲ迸出セシメ之ニ放火セリ

同日午前十一時頃百二三十名ノ賊徒ハ「エスクイントラ」村ヘ殺到シ來レリ、住民等ハ必ズコノ事アラント豫期セルコトトテ侵入ノ報傳ハルヤ其暴行ヲ恐レ多クハ山中ニ避難セリ、十三名ノ守備兵ハ地形ヲ利用シテ防禦大ニ努メタルモ及バズ敵ノ大尉一名卒一名ヲ傷ケタル上退却セリ、賊ハ前役場書記一名ヲ銃殺シ一村民ヲ絞殺シ十三軒ノ民家ニ放火シ更ニ商店ノ殘品ヲ奪ヒタル後隣村「アカコヤグア」村(Acacoyagua)(戸數參百餘戸、人口五千人)ニ向ヒテ同村村役場、小學校ヲ始メ六拾四軒ノ民家ヲ焼キ拂ヒ一名ノ村民ニ負傷セシメ二名ヲ捕虜トシテ逃走セリ、當夜ハ村民ノ大部分ガ山中ニ避難シ居リ且ツ守備兵村役場員巡查等悉ク何処ヘカ姿ヲ没シタル爲メ附近ノ小盜賊無賴漢等ハ此ノ機ニ乗ジ空屋ト見レバ戸、窓ヲ破壊シテ乱入シ家財道具ノ掠奪ヲ擅ニセリ

同十七日朝「ソリス」大尉「ウイストラ」方面ヨリ百二十餘名ノ兵ヲ引率シ來リ敵ノ追撃ニ向ヒタルモ敵ノ遺棄セル馬匹七拾頭ヲ見出シタルノミニテ彼等ニ一撃ダモ加ヘズ空

ノ所謂「ヴキイスタ」ナル賊徒「コンコルディア」方面ヨリ來襲シ二十名ノ守備兵ト交戦シテ直ニ之ヲ占領シ掠奪、強姦、放火有ユル乱暴ヲ盡シ翌十八日早朝逸走セリ其際岸本合名會社ノ代表者長田泰治及福井惣一ハ何レモ數千「ペソ」ノ損害ヲ蒙リタリ

六月十九日午後十時過ギ「エスクイントラ」村ノ隣村「アカコヤグア」村管轄内ニアル高田政助農園(「エスクイントラ」村ヨリ東方約八「キロメートル」)ヘ十五六名ノ強盜現ハレ各自鐵砲ヲ差シ向ケテ同人ヲ脅迫シ僅カノ所持金、衣類ヲ始メ、米、豆ニ至ル迄強奪シ去リタリ

六月二十五日夜十一時頃高田農場ヲ去ル北方一「キロメートル」ノ布施當松農場ヘ八名ノ武裝強盜侵入シ突然同人ノ頸ヘ荒縄ヲ掛ケ天井ニ吊上ゲテ脅迫シ現金三十「ペソ」餘ト雜品ヲ奪ヒ去レリ

小官ノ當地方ヘ到着シタル當時ハ三月十二日及同十五日來襲セシ如キ稍々大部隊賊徒ノ被害ナカリシモ日夜小賊往行シ盜ムベキモノナケレバ人ヲ殺傷スル事アリ危険至極ノ情態ニシテ村民ノ不安ハ想像ノ外ナリキ

小官ガ「エスクイントラ」村村長「エラスモ、ベレス」

(Erasmo Pérez) 氏及隣村「アカコヤグア」村村長「サベロ・アントニオ」(Sabero Antonio) 氏ヲ訪問在留民ノ保護方ヲ依頼シタル際兩村長ハ答ヘテ予等ハ度々當村及附近ノ危険ナル狀況ヲ軍司令官及中央政府ニ報告シ保安ノ維持上守備隊ノ増兵方ヲ稟請シタルモ何等回答ナキヲ告ゲ出來得ベクバ小官ノ出張ヲ機トシ日本公使館ヲ經テ此際一日モ速ニ我々住民ノ願意ノ達セラルル様盡力方ヲ懇請セラレタル程ニシテ又「ソコヌスコ」郡守備隊長「ソリス」大尉モ守備兵ノ寡少ナルヲ以テ充分賊徒ノ襲撃ニ備ヘ難シト歎シ居リタル有様ニテ在留日本人ハ素ヨリ一般住民モ殆ド生命財産ノ保障ヲ得ラレザル哀レムベキ境遇ニアリタリ然ルニ七月下旬「フィデル・モラド」大將 (General Fidel Morado) 新ニ「バン・アメリカン」鐵道沿線及「チアパス」州沿岸地方ノ守備隊長ニ任ゼラレ當地方ヲ視察セシ際右ノ事情ヲ知り直チニ兵四十三名ヲ「エスクイントラ」村ニ駐屯セシメ附近村落ノ守備ニ當ラシメタルヲ以テ爾來賊徒ノ被害ナキニ至レリ加フルニ「ユカタン」州知事兼東南部征討軍司令長官「サルウアドル・アルウアド」(General Salvador Alvarado) 大將ハ八月上旬兵二千餘名ヲ率ヒテ

「チアパス」州ノ賊徒平定ニ向ヒ同地方ノ守備一層嚴重トナリタルタメ目下賊徒ノ出現ナク至極靜穩ノ狀態ニアリ

二、「ウイストラ」町 (Huixtla)

當町在留日本人ハ日墨協働會社經營ノ雜貨店及ビ同藥劑部ノ店員六名ニ過ギズ當町ニハ「アルフォンソ・ソリス」大尉 (Alfonso Solis) ノ率ユル二百五十名ノ守備隊アリテ嚴重警備ノ任ニ當リ居リ蛮賊ノ被害ヲ蒙リタルコトナシ然レドモ右守備兵等ハ往々人家ニ入り食料品及日用品ヲ強請スルコトアリト云フ

三、「タバチュラ」市 (Tapachula)

「ソコヌスコ」郡廳ノ所在地ニシテ目下駐屯兵百四拾名餘アリ在留邦人七名中一名ハ雜貨店ヲ開業シ居リ他ハ日墨協働會社經營ノ藥劑店ノ店員ナリ

「チアパス」州知事「パブロ・ウィヤヌエバ」(Pablo Villanueva) ハ本年四月茲ニ軍司令部ヲ設置シ州内ニ散在スル賊徒ノ討伐ニ從事シタルモノナルガ當市ハ一回ダモ賊徒ノ襲撃ヲ受ケタルコトナク在留民中ニモ損害ヲ蒙リタルモノナシ

當市駐在英國副領事「アール・オー・ステヴェンソン」

(R. O. Stevenson) 氏ハ當地方ニ在留スル邦人等ガ本年

三月以來續々トシテ賊徒ノ被害ヲ蒙リタル際此レガ救済方ヲ地方官憲ニ願出デシモ口先ノミニテ一向取合ハズ左レバトテ帝國公使館ニ願出デントセシモ交通杜絶ノ爲メ至急ニ之レヲ果タシ得ザリシヲ以テ仮令他國人トハ云ヘ同盟國領事ノ手ヲ經タランニハ在留民ガ直接ナスヨリモ幾分有効ナラントシ其願意傳達方ヲ度々依頼シタル際ナゾハ早速承諾シ時機ヲ過タズ州知事始メ地方官憲及軍憲ニ之ヲ移牒シ其危急救済ノ爲メ充分盡力セラレタリ

氏ハ五十歳前後ノ温厚ナル人物ニシテ目下小資本ノ銀行業ヲ營ミ居レリ、小官訪問ノ際當地方在留日本人ノ爲メニハ及ブ限リノ盡力ヲ惜マザル旨誓ハレタリ

第二、「ヴェラクルス」州「オハケニア」耕地及其附近ニ於ケル日本人被害狀況

一、「オハケニア」耕地 (Plantacion de Oaxaqueña) 本年六月一日夜「サパティスタ」(ZAPATISTA) ト稱スル賊徒三百餘名當耕地ニ侵入シ忽チ守備ノ官兵三十名ヲ擊退セリ而シテ村民等ハ悉ク附近ノ森中ニ避難シ人家ハ無人ノ有様ナリシ爲メ賊ハ當地「タバスコ、プランテーショ

ン・ロンバニー」(“Tabasco Plantation Company” 美國製糖會社) 支配人ノ住宅ニ乱入シテ現金三百「ペソ」餘ヲ始メ目星シキ家具類ヲ掠奪セリ在留民三十八名中十二名ノ借地農夫ヲ除キテハ總テ前記製糖會社ノ被傭人ニシテ何レモ財政富カナラザレバ不意ノ賊徒ノ來襲ニ遭ヒ衣類、家具ノ大部分ヲ失ヒ頗ル困憊ノ體ナリキ、

翌二月早朝ニハ対岸ナル「サポタム」(Sapotam) 村 (在留邦人十二名、内一雜貨商店ヲ除キテハ皆一、二町歩ノ土地ヲ借り農業ニ従事シ居レリ、他ニ三名ノ朝鮮人農夫アリ) ニ入り一日本人雜貨店 (福岡縣人草場長次郎及同西本彌太郎兩人ノ合資ニテ雜貨ヲ商ヒ居ルモノナリ) ニテ「ブルケ」酒、「テキラ」酒ノ如キ強烈ナル酒ヲ痛飲シタル後家人ヲ荒縄ニテ軒ノ梁ニ吊シ上ゲ脅迫ノ上現金百五十「ペソ」馬匹三頭及ビ商品 (價格約三百「ペソ」) ノ殆ド全部ヲ強奪シ且ツ他ノ日本人ヨリハ衣類及穀類ヲ掠奪シ去レリ在留民ハ其日暮シノ者ニシテ日々刻苦労働ノ結果僅カニ殘シ得タル米、豆類ヲ無法ナル賊徒ノ爲メニ強奪セラレタルコトトテ其失望ノ様誠ニ哀レナルモノアリタリ、同日午後四時當地ヨリ西方約二十「キロメートル」ニアル

「サンタ・ルクレシア」町 (Santa Lucrecia) 駐屯守備隊ヨリ「ペドラサ」少佐 (Mayor Pedraza) 約六十名ノ兵ヲ率ヒテ應援ニ來リタルモ既ニ賊徒ノ退却シタル後ナリシカバ何等爲スコトナク直ニ本部ヘ引返シタリ其際前記製糖會社ノ倉庫ヨリ「アルコール」二十「リットル」入箱七個及人民ノ馬匹四頭ヲ賊ノ遺棄セル戦利品ナリト稱シ之レヲ強奪セリ

「オハケニヤ」耕地駐屯守備兵ハ往々在留民ノ家畜及穀類ヲ強奪セシモ皆後難ヲ恐レテ口外セザリシモノナリ然ル処最近來任セシ守備隊長「プラトン、カデナ」(Platon Cadena) 中尉ハ部下ノ取締リヲ嚴重ニシタル結果官兵ノ掠奪ヲナスモノナキニ至レリ目下「オハケニヤ」耕地ニハ四十餘名ノ守備兵アリ附近村落ヲ警備シ居リ且ツ賊徒ノ再來襲モナキヲ以テ一般静穩ノ状態ニ在リ

六月一日、二日ニ亘リ當耕地附近ヲ襲ヒタル賊徒ハ當地ヨリ東約六十「キロメートル」ヲ去ル「イダルゴ」村 (Hidalgo) ニ根據シ二千餘名ノ兵ヲ率ヒ居レリト噂セラルル「カストロ、ペンス」(Castro Pérez) ノ部下ナリト云フ

二、「オハバ」村 (Ojapa)

gerio Flores) 氏二百餘名ヨリ成ル守備隊長トシテ當町ニ駐屯シ居レリ町内ノ状態平穩ニシテ賊徒ノ被害ナシ

三、「プエルト、メヒコ」港 (Puerto México)

當地在留日本人二十七名中醫師一名、雜貨商二名、薪炭商一名ヲ除キテハ他ハ悉ク漁夫ナリ此等在留民ハ嘗テ賊徒ノ襲撃ヲ蒙リタルコトナカリシモ本年、三、四、五月ニ亘リ當地方軍司令長官「ラファエル、バルドマド」大將ノ在任中其ノ部下兵士等ハ日夜ヲ分タズ各商店ニ闖入シテ掠奪ヲ擅ニシタル際少ナカラザル商品ヲ強奪セラレタルモノナリ、當時町長其他ノ官憲ハ兵士等ノ乱暴狼籍ヲ承知シナガラ却テ不承知ヲ装ヒ何等ノ鎮撫策ヲ施サズ彼等ノ爲スガ假ニ放任シタルヲ以テ被害者等ハ訴フルニ処ナク閉店シテ之レガ乱入ヲ防ギタリト云フ然ルニ本年七月下旬「マイコット」將軍 (General Maycotte) 當地方守備隊長ニ任ゼラレ「バルドマド」大將及其部下ノ不正行爲ヲ知ルヤ直ニ此等ヲ獄ニ投ジ同時ニ己レノ部下ノ取締ヲ嚴重ニシタルヲ以テ目下至極静穩ナリ

當港ニハ十五名ノ朝鮮人漁夫在留シ居ルモ賊徒ノ被害ヲ蒙リタルコトナク且ツ在留日本人トノ間圓滿ナリ

福岡縣人長野三次郎ハ本年二月初旬其所有ニ係ル「アシエング、デ、コレヤ」耕地(二百八十町歩ニシテ「オハバ」駅ヲ去ル西南二十「キロメートル」)ヲ賊徒ノ爲メニ屢々蹂躪セラレ耕作具及ビ家具ヲ奪ハレ殆ンド耕作シ得ザルニ至リタルノミナラズ漸次生命スラ危険トナリタルヲ以テ當時ノ守備隊長「サバラ」少佐 (Mayor Sabala) ニ願出デ之レガ討伐方ヲ依頼セシモ言ヲ左右ニシテ應ゼズ遂ニハ長野ヲ賊徒ノ援助者ナリト稱シテ之ニ退去ヲ命ジ滿一應ゼザレバ銃殺スベキ旨ヲ宣告シタルヲ以テ長野ハ數年間苦心ノ末漸ク整理シ相當ノ収獲ヲ見ルニ至リタル同耕地ヲ棄テ止ムナク停車場附近ニ引キ上ゲタリ該耕地ヘハ未ダニ賊徒出沒シ且ツ政府軍ノ守備行届カザルタメ在留農夫四十餘名ハ何レモ他ニ引移リ目下前記長野が停車場附近ニテ製米所ヲ設ケ居ル外二三ノ借地農夫在留セルニ過ギズ而シテ「オハバ」停車場ニハ四十名ノ守備隊アリテ附近ノ村落ヲ警戒シ居リ最近賊徒ノ被害ヲ聞カズ「オハバ」村ヨリ西北方約十二「キロメートル」ニ「アカユカン」町 (Acayucan) アリ在留邦人ハ僅カニ五名ニ過ギズ一雜貨店、一酒店及醫師一名アリ、陸軍大佐「ロヘリオ、フونس」(Coronel Ro-

四、「ミナティラン」町 (Minatitlan)

日本人ノ在留スルモノ三十四名アリ五名ノ雜貨商人ヲ除キテハ他ハ悉ク「ホル、アギラ」石油會社 ("El Aguila", S. A., Cia. Mexicana de Petroleo) (英國人ノ資本ニ成ル) ノ被傭人ナリ、賊徒ノ被害ヲ聞カザルモ往々守備兵ノ乱暴スルニ遭ヒ商品ヲ強奪セラルルコトアリト云フ、其都度守備隊長ニ訴出ヅルモ取合ハザル有様ナルヲ以テ右等商人ハ可成兵士、及官憲ノ意ニ逆ラヌ様懺々トシテ営業シ居ル状態ナリ

第三、「オハカ」州「サリナクルス」港ニ於ケル日本人ノ上陸狀況

東洋汽船株式會社南米線汽船ハ二ヶ月毎ニ當港ニ寄港ス當港上陸日本人ノ狀況ニ関シ當地官憲及在留民ニ其模様ヲ聞クニ日本ヨリ渡航スルモノハ毎航少クトモ二十名アリ又伯國、「アルゼンチン」、智利及秘露等ノ南米諸國ヨリ轉航スルモノ最近四五十名ヲ下ラズト云フ

當港檢疫官ハ一、二等船客ニ対シテハ唯其姓名ヲ呼ブニ過ギザルモ三等船客ニ対シテハ船長ノ作製セシ「パッセンジャー、リスト」ニヨリ一々呼出シ第一ニ眼ヲ検査シ次ニ一

般健康状態ヲ至極簡單ニ調べタル上之レガ上陸ヲ許可シ直チニ東洋汽船會社ノ設ケタル消毒所ヘ送りテ茲ニ一週間収容シ衣類、荷物等ヲ消毒セシム右終リテ後始メテ入國ヲ許可スルモノナリ、而シテ從來日本人ニシテ病氣ノ爲メ上陸ヲ拒絕セラレタルモノ皆無ノ有様ニテ邦人ノ當港上陸ハ日本ヨリスルモ將タ南米諸國ヨリ轉航シ來ルモ甚ダ容易ナルモノナリ

本年ニ入りテハ右等轉航者多ク殊ニ秘露國ヨリ來リタルモノニテ日本行乗船切符ヲ所持シナガラ當港ニテ上陸スルモノ多數アリタル趣ニシテ其大部分ハ米國潛入ノ目的ヲ有シ先ヅ「サリナ、クルス」港ヨリ二百頓内外ノ小汽船ニ乗ジテ「シナロア」州「マサトラン」港 (Matatlan, Estado de Sinaloa) ニ向ヒ同地ヨリ漸次北上シテ米國ヘ密入國ヲ企ツルモノナリト云フ彼等ハ曩ニ米國ヘ密入國ヲ企テ之ニ成功セシモノヨリ送ラレタル潛入用明細地圖及其説明書ヲ携帯セル由ナリ、中ニハ米國渡航ノ困難ニシテ墨國上陸ノ容易ナルヲ知り日本ヨリ態々當地ニ來リ然ル後米國ヘ密入國ヲ計ル者往々アル由ヲ聞ケリ

南米ヨリ轉航シ來リ米國ヘ潛入セントスルモノハ殆ド裸體

引致セラルルモノ毎航絶エズ其都度在留日本人ノ手ヲ煩ハスト云フ且ツ地方官憲及税關吏ノ監視不充分ニシテ一向斯カル被害ヲ意ニ介セザルヲ以テ全然盜マレ損ニ歸スル有様ナリ其他船客ノ乗下船ニ際シテハ約二三海里沖ニアル本船ヘ四五十噸ノ曳船用小蒸汽船ニテ運バレ其レヨリ乗船或ハ下船スルコトトテ平時ニ於テスラ「ウネリ」高キ沖ナレバ少シク波立ツ時ノ如キハ婦女子小兒ノ昇降甚ダ困難且ツ危險ナルコトアリ船客及當港官憲ニ於テ棧橋繋留ノ便宜ニシテ安全ナルヲ船長ニ説クモ港内水浅クシテ不可能ナリトテ之レヲ肯ンゼザル趣ナリ然レドモ現ニ安洋丸、紀洋丸ヨリ大ナル米國汽船ニシテ當港棧橋ニ繋留セシ例アル由ナレバ獨リ日本船ニ於テノミ之レヲ爲シ得ザル理由ナキヤニ觀ゼラル

左レバ東洋汽船會社ニ於テ船客ノ便ヲ計リ當港入港ノ社船ヲシテ棧橋ニ繋留セシムルト同時ニ其代理店ニ於テ荷物運搬ノ取扱ヲナスニ至ラバ多少ノ手数料ヲ徴セラルルモ船客ノ受クル便宜多大ナルベシ

當港乗船東洋行船客ハ在墨西哥市東洋汽船會社代理人或ハ「サリナ、クルス」ノ同社代理店ニテ切符ヲ購フモノナル

ニ等シキ服装ヲナシ必ズ一個ノ大信玄袋ヲ携帯シ居リ甚ダシキニ至リテハ破レタル襦袢袴袴袴一枚ノ姿ニテ脊ニ小兒ヲ負ヒ悠々大道ヲ闊歩セル婦人アリ土人等スラ其風俗ノ野蠻ナルニ驚キ罵聲ヲ發スル有様ナルガ故當地在留日本人等ハ見兼ねテ之ニ注意スルモノ一向顧ミズ平然トシテ人家ノ軒ニ横臥シ居ル趣ナリ

當町々長「エンリケ、モンタニヤ」(Enrique Montana) 氏及税關長「ホセー、オヘンデス、ギリエン」大佐 (Jose Ojendes Guillen) ハ右醜態ノ事實ヲ目撃シタルモ其取締方法ナケレバ唯傍觀ノ外ナカリキト苦笑シ居リタリ

又近來呼寄ニヨリ當國ニ渡航シ來ル日本人ニシテ「サリナ、クルス」港迄ノ旅費以外ニ所持金アルモノ少ナク爲メニ絶エズ起ル汽車事故ノ爲メ二三日ヲ當地ニ過ゴスノ止ムヲ得ザルニ至ランカ忽チ食ニ困ル有様ニテ在留邦人ニ迷惑ヲ及ボスコト少ナカラズト云フ

現在當港ニハ貨客取扱所ナク携帯荷物ノ運搬ハ盜賊ニ等シキ波止場人足ニ命ゼザル可カラズ爲メニ充分言語ニ通ゼザル日本人ハ不當ノ運賃ヲ強請セラレ時ニハ荷物スラ盜マルルコトアリ、餘リノ不法ヲ憤リテ人足共ヲ毆打シ警察署ヘ

ガ一等ノ切符ヲ携帯スルモ船室ナキノ故ヲ以テ二等若クハ三等室ニ入ラザル可カラザルコトアリ切符販賣所ト汽船トノ連絡不統一ノ爲メ思ハザル不便ヲ感ズル由ナリ

附 録

視察旅行雜感

一、大正六年七月九日墨都ヲ發シ同十五日「チアパス」州「ソコススコ」郡「エスクイントラ」村ニ到着ス平時ニアリテハ鐵路三晝夜ニテ達シ得タルモ當國數年間ノ革命擾亂ノ結果鐵道線路夥シク破壊セラレ之ニ充分ノ修繕ヲ加ヘザル爲メ脱線ノ事故多ク從テ之レヲ避ケンガ爲メニ列車ノ進行ハ遅々トシテ抄取ラズ且ツ盜賊ノ列車襲撃頻リナルヲ以テ夜間ハ全然發車セズ豫想外ノ日數ヲ要スルモノナリ、客車、貨車ハ使用シ得ル限り使用シ居ルモノナルヲ以テ破損ノ個所多ク殆ド完全ナルモノナシ左レバ天井ヨリ雨ハ落チ窓ヨリハ吹き込ム有様ニテ車内ニ於テ尚ホ雨具ヲ用意セザル可カラズ且ツ目下使用シ居ルモノハ僅々三四臺ニ過ギズ爲メニ一度事故ニ遭遇セシカ不便至極ノ一寒村ニ三日四日長キハ二週間以上モ滞在ヲ餘儀ナクセラルル場合アルヲ以テ旅客ハ各自食料品及飲料水ヲ携帯乗車シ満一ニ備ヘ居レ

リ、列車ニハ必ズ五六拾名ノ兵士護衛ノ爲メ便乗シ居ルモ少シク有勢ナル賊徒ノ襲撃ヲ蒙ルトキハ我レ勝ちニ逃走スル意氣地ナキ兵ナルヲ以テ貨物ハ勿論旅客ノ携帶品等ハ一切彼等賊徒ノ爲メニ掠奪セラレ甚ダシキニ至リテハ慘酷ニ殺傷セラルルコトアリ旅行ノ安全ハ今尚ホ全然保障シ得ザル状態ナリ

二、政府軍隊及警察ノ状況

今回小官ノ出張セシ「チアパス」州地方ニ於テハ各停車場ニ二十名乃至五六十名ノ兵士ヨリ成ル守備隊ノ配置セラレ居ルヲ見タリ彼等兵士ハ列車ノ護衛及附近村落ノ守備ニ當リ居ルモノナルガ其ノ殆ド全部ハ労働ヲ厭フ懶惰者ニシテ其ノ兵士トナリタルモ比較的勤務楽ニシテ時ニ掠奪等ヲ擅ニシ得ル機會アルガ爲メナリ、彼等ノ中ニハ漸ク歩行ニ堪ヘ得ル老人及十三四歳ノ辛ジテ銃ヲ捧持シ得ル小兒等多ク且ツ何等軍隊の教練ヲ受ケタルモノニモ非ラザレバ其不規律ナル言語同斷ニシテ到底賊徒ニ対シ充分ノ攻撃ヲ加ヘ得ルトハ思ハレズ況ンヤ一日壹弗^{ペソ}ノ日給スラ十日モ二十日モ之レヲ給セラレザル有様ニシテ録々食事スラ爲シ能ハザル彼等ノ状態ナルヲ以テ其守備竝ニ攻撃力ノ微弱ナルハ勿論

シヲ「フェルナンデス」(Tiburcio Fernandez)「アルヴアロ・アレス」(Alvaro Ares)及「カストロ・ペレス」(Castro Pérez)等ノ叛將割據シ居リ政府軍ノ油斷ヲ窺ヒ良民ヲ苦シメツツアリ右等賊徒ハ互ニ連絡ヲ取其行動機敏ニシテ真ニ驚クベキモノアリト稱セラル而シテ其總勢三千人ヲ下ラズトノコトナリ

彼等ノ始メテ「カランサ」政府ニ対シ反旗ヲ挙げタリシ際ハ何等良民ニ危害ヲ加ヘザリシモ戦ヒ常ニ利アラズ加フルニ近來武器彈藥及食料品等ニ夥シキ欠乏ヲ生ジ堂々ト敵対シ得ザルニ至レル結果遂ニ盜賊ト變ジ掠奪ヲ擅ニスルニ至レルモノナリ

要之「チアパス」州地方ニ於テハ前記ノ通り目下政府ヲ覆スガ如キ有勢ナル叛徒ナキモ絶エズ小賊ノ往行シテ掠奪、人殺ヲ敢テスル所以ノモノハ全ク政府軍ノ守備宜シキヲ得ザルガ爲メナルヲ以テ至急同地方ニ於ケル交通ヲ便ニシ且ツ地方守備軍ノ軍紀ヲ一層振興セザル以上到底蛮賊ノ掃蕩ハ不可能ニシテ依然トシテ小組賊徒ノ被害ヲ免ルコトナカルベシ。

右及報告候 敬具

ニシテ村民等モ安ンジテ官兵ノ保護ヲ信賴シ得ザリキ、然ルニ八月中旬「ユカタン」州知事兼東南部征討軍司令長官「サルヴァドル、アルヴァラド」將軍ハ部下ノ兵士ヲ「チアパス」州ニ於ケル枢要ノ個所ヘ増派シ守備ヲ一層嚴重ニシタルヲ以テ同地方ハ目下靜穩ノ状態ニアリ

一方地方官憲ニ至リテハ「カランサ」將軍ガ人氣取策トシテ労働者中ノ有力ナルモノヲ挙げテ町長及村長等ニ任命セルコトトテ彼等ノ專横甚ダシク人民ニシテ金品ヲ贈ラザレバ種々無法ナル口實ヲ設ケテ之レニ罰金ヲ課シ應ゼザレバ獄ニ投ズルハ往々アル事實ニシテ殊ニ言語ノ充分通ゼザル在留民ニ対シ甚ダシト云フ

地方ニ於ケル警察權ハ目下全ク軍憲ニ於テ之ヲ掌握シ居リ各町村ニ駐在スル巡查ハ単ニ町村ノ見廻リニ過ギズシテ何等職權ヲ行使シ得ザル有様ナリ

三、賊軍ノ状況

「チアパス」州ト「ヴェラクルス」州及「タバスコ」州トノ州界ヲナス山間ニハ「サルヴァドル、メンデス」(Salvador Mendez)「イアイアス・アルボレス」(Iaias Albores)「クレセンシアノ、ソサ」(Cresenciano Soza)「ティブル

大正六年十月十五日

在墨国日本公使館

外務書記生 牛 尾 正 雄 (印)

六三九 十一月十九日

在墨国太田臨時代理公使ヨリ
本野外務大臣宛

墨国チアパス州旧榎本植民地ノ保護ニ関スル件

附屬書 墨国外務次官米輪和訳文

公信第三〇四号

(大正七年一月四日接受)

大正六年十一月十九日

在墨

臨時代理公使 太 田 為 吉 (印)

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

在「チアパス」州日本植民地ノ保護ニ関スル件

当国南部所在「チアパス」州旧榎本植民地附近在留ノ邦人保護ノ件ニ関シテハ去ル八月二十四日附公第二〇八号並ニ九月一日附公第二一〇号拙信ヲ以テ及報告置候処同地方ヘ軍隊ヲ派遣スル件ニ関シ嚮キニ当国國務省ヘ照会シ置キタルニ対シ今回更ラニ別紙^(註)寫ノ通り外務次官ヨリ通知有之右地方駐屯軍司令官ノ報告ニヨレハ日本植民ハ適當ニ保護セ

ラレ居ル趣ニ有之候条別紙訳文相添此段及報告候 敬具

註 別紙墨国外務次官来翰原文写省略

(附屬書)

墨国外務次官来翰和譯文

千九百十七年十一月十六日附

第一三六四號

以書翰致啓上候陳者軍事當局者ノ報告ニヨレハ「チャパス」州「エスクイントラ」村ハ適當ニ護衛セラレ政府ノ軍隊ハ屢々同地方ヲ劫掠スル草賊隊ヲ討伐シタル趣ニ有之候
右ハ同地方在留日本人ニ對シ適當ナル保護ヲ与ヘラレン目的ヲ以テ曩ニ貴下ノ當省ニ御照會相成リ候所ニ關聯シ茲ニ之ヲ貴下ニ向テ通報スルノ光榮ヲ有シ候
右申進旁本官ハ茲ニ重ネテ貴下ニ對シ敬意ヲ表シ候 敬具

六四〇 十二月十九日

在米國佐藤大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

日本ガカランサ政府ヲ正式ニ承認シタリヤト
ノ英國政府ヨリノ問合ニ付本省ニ請訓シタル
珍田大使發電報転電ノ件

第五五八号

(十二月十九日接受)

話セリ

六四一 十二月二十二日

本野外務大臣ヨリ
在米國佐藤大使宛(電報)

カランサ政府承認問題ニ関シ我政府ノ取扱振
ニ付在英國珍田大使ヘ回訓ノ件

第四六一号

貴電第五五八号ニ関シ次ノ通珍田大使ヘ転電アリタシ
第八三六号

佐藤大使經由貴電第五五〇号ニ関シ帝國政府ニ於テ墨国「カランザ」政府ヲ正式ニ承認スルヤ否ヤハ先以テ連合諸国ノ態度ヲ知リタル上ニテ決定スルコトトシ從テ本年八月二十日附ヲ以テ在本邦墨国代表者ヨリ送附シ越セル「カラソザ」就職ヲ我陛下ニ報道スル親書ニ對スル御答翰發送方モ奏請ヲ見合セ居リタル処在墨新任伊太利公使ハ九月二十五日信任状ヲ「カランザ」ニ捧呈シ又在墨米國大使ハ二十六日米國大統領ノ親書ヲ「カランザ」ニ捧呈シ且右ニ関シ

去ル十二月四日在英大使ヨリ本使参考迄ニ電報アリタル同大使發貴大臣宛第五五〇号電報今回同大使ヨリ貴大臣ヘ転電方依頼アリタルニ付左ニ電報ス

往電第(不明)号ニ関シ(不明)ハ英國政府ハ在墨英人ノ希望ニ応シ承認ニ傾キ仏國政府同様兎ニ角「カランザ」承認書ヲ華盛頓ニ送り何分ノ訓令アル迄墨国ヘ發送方差控フヘキ旨命シ置キタルガ連合国ニシテ承認セハ墨国内ノ敵国「エーリエント」ハ同人ノ大統領ニ對シテ反乱ヲ起シ米國ノ干渉ヲ必要トスルニ至ルヘキニ付慎重ノ考究ヲ要スル問題ナレバ仏國政府ニ未タ承諾ノ回答ヲ為サズトノ趣ニテ帝國政府ハ「カランザ」ニ *de jure* 承認ヲ与ヘラレタルカ英國外務省ヨリ問合セアリ何分ノ御回訓ヲ請フ
尚ホ米國大統領ヨリ「マイ、グレイト、アンド、グッドフレンド」ニテ始メタル八月三十一日附就職祝辭ヲ「カランザ」ニ送リタルニ對シ在米英國大使ヨリ説明ヲ求メタルニ國務長官ハ右文體ハ先例ニ依リタルモノニアザルモ「カランザ」ハ是レニテ満足シタルニ付与ヘタルモノニシテ必スシモ正式承認ヲ意味スルモノニ非ズト答ヘタル趣九月十日附ニテ英國政府ニ報告アリタルカ長官ノ意思解シ難キ旨ヲ内

佐藤大使カ本大臣ノ訓令ニ依リ國務卿ニ確メタル所ニヨレハ米墨兩國ハ互ニ大使ヲ交換更任シ最近駐墨米國大使ノ信任狀捧呈済ミタル今日「カランザ」政府ハ之ヲPracticallyニ承認シタルモノト云フヲ妨ゲザルベキモ米國政府トシテハ未タ公式ノ承認ヲ為シ得サル立場ニアリ云々トノコトニ付帝國政府ニ於テモ前記墨國大統領ノ親書ニ對シ陛下ヨリ御答翰(其ノ就職ヲ祝スル常例ノモノ)ヲ發セラルルコトニ決シ在墨太田代理公使ハ十二月十八日墨國大統領ニ謁見ノ上右捧呈済ナリ尤モ帝國政府ハ右御答翰發送ノ事實ヲ以テ墨國政府ヲ正式ニ承認シタルモノトハ解シ居ラズ

六四二 十二月二十五日

本野外務大臣ヨリ
在米國佐藤大使宛(電報)

カランサ政府ノ承認問題ニ關スル件

第四六四号

往電第四六一号貴電第五五八号ト共ニ参考トシテ在墨代理公使ニ転電アリタシ

日本外交文書 大正六年第一冊 終